

### Ⅲ.小学生低学年（保護者）調査

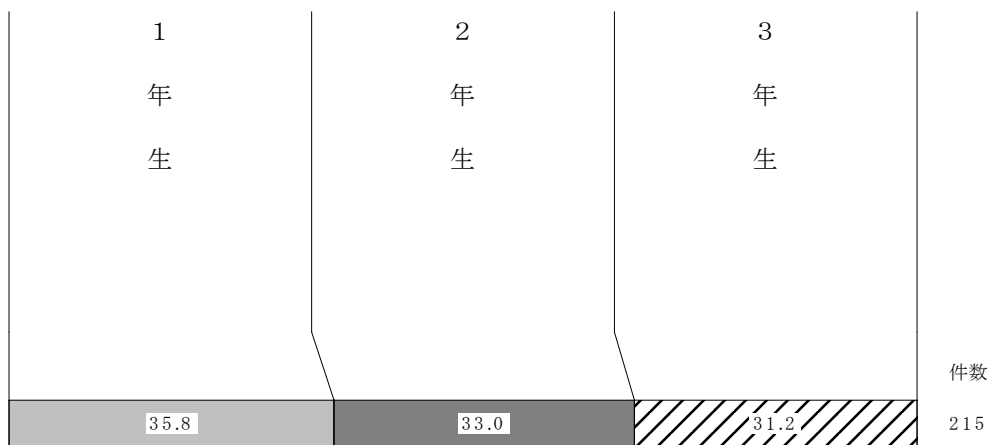
#### Ⅲ. 1 小学生とその家族の状況

■小学校低学年と小学校高学年のいる世帯が多く回答しており、就学前児童同様に2人子どもがいる世帯で親子だけの世帯が多いものの、就学前児童世帯よりも子ども数が多い。  
 ■小学生の父親は、30・40歳代が多くを占めており、母親は30歳代が多い。就業状況は、父親は給与生活者が72%、母親はパート・アルバイトが44%で、共働き世帯が70%である。

##### ① 子どもの学年等

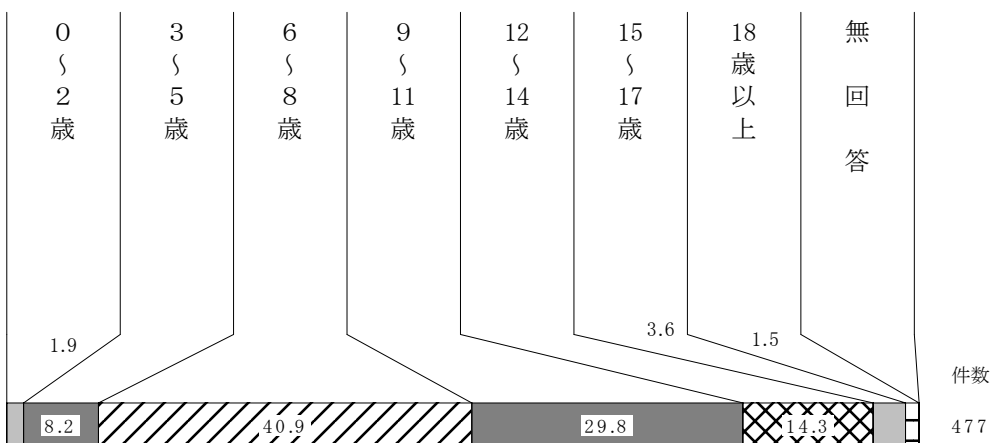
子どもの学年 ■ 「1年生」が36%、「2年生」が33%、「3年生」が31%で、1～3年生ほぼ同程度となっている。

問1 子どもの学年 [%]



子ども全員の年齢 ■ 調査対象の小学校低学年児童とその兄弟姉妹をあわせた世帯全体の子どもの年齢は、「6～8歳」が41%、「9～11歳」が30%、「12～14歳」が14%となっており、小学校低学年で複数または小学校低学年と高学年の兄弟姉妹の構成が多いことが想定できる。

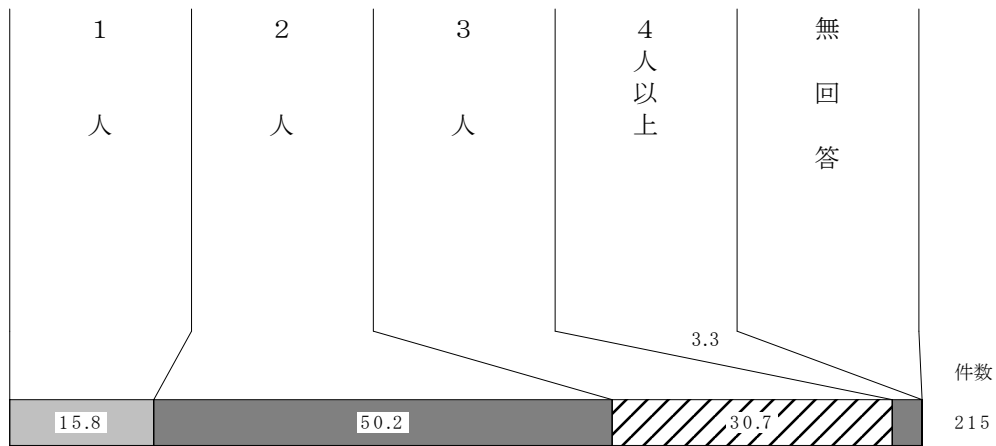
問2 子ども全員の年齢 [%]



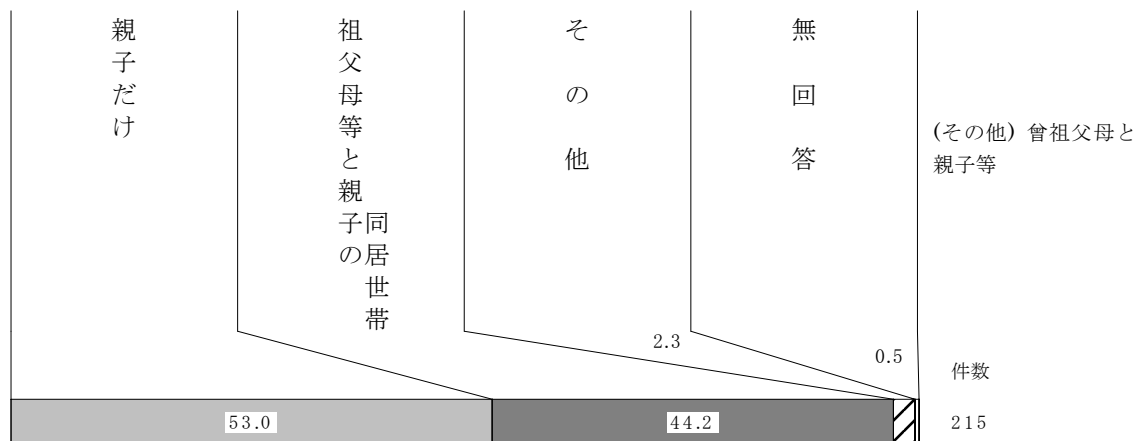
## ② 世帯の状況

世帯構成 ■ 世帯の子ども数は、「2人」が半数程度、「3人」が31%と就学前児童よりも「3人」の割合が高く、世帯の子ども数は平均 2.21 人である。世帯構成は「両親がいる世帯」がほとんどで、両親と子どもだけの「親子だけ」の世帯が53%と多く、「祖父母等と親子の同居世帯」は44%である。

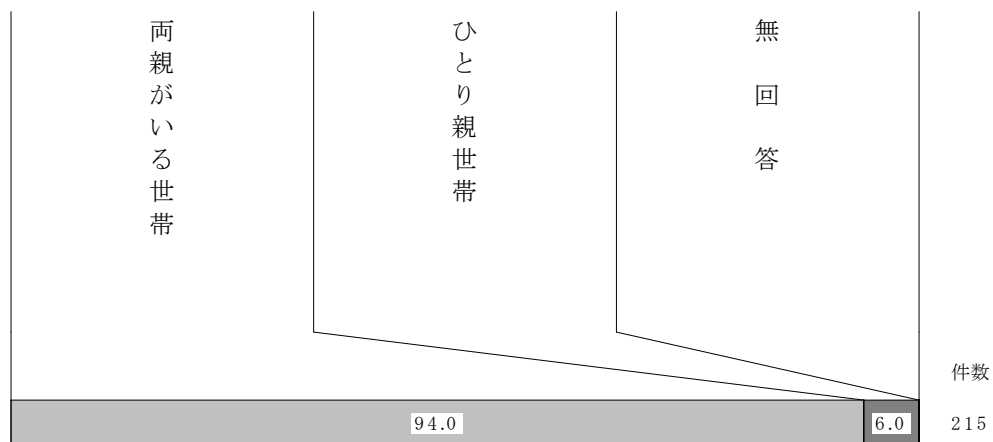
問2 世帯の子ども数 [%]



問3 家族構成 [%]



問4 世帯数 [%]

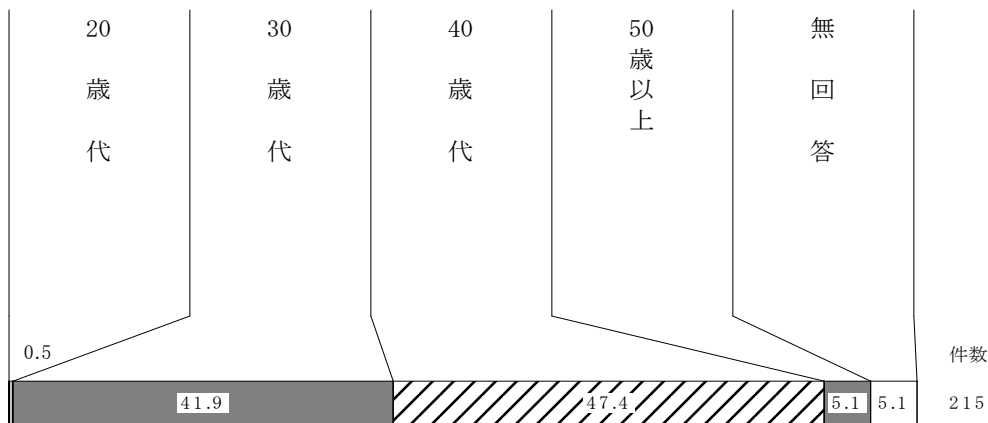


世帯の子ども数は、子どもの学年が上がるると「3人」の割合が上昇し、3年生は45%に上る。親子だけの世帯は、非共稼ぎ世帯がやや多く、同居世帯は共稼ぎ世帯の割合が48%と高い。

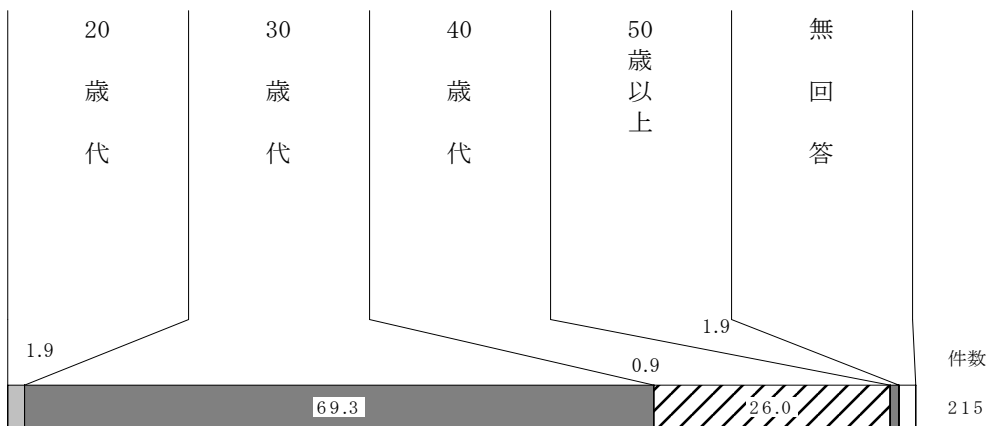
### ③ 親の状況

親の年齢 ■ 小学校低学年児童の親は、父親は「40歳代」が47%とやや多く、「30歳代」が42%となっている。一方、母親の年齢は、「30歳代」が69%と多く、「40歳代」は26%となっており、父親の年齢層に比べて低い。

問4(1) 父親の年齢 [%]



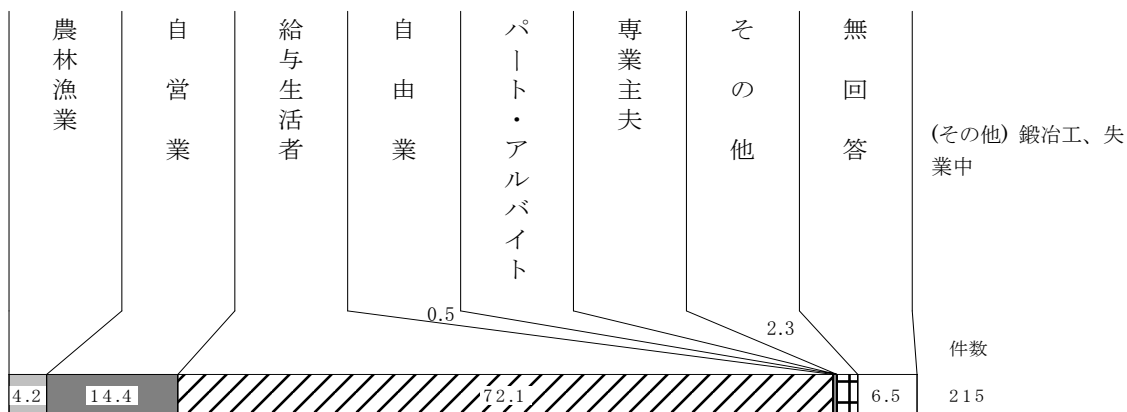
問4(1) 母親の年齢 [%]



子どもの学年が上がると、父親の年齢は「40歳代」の割合が高まり、2・3年生はそれぞれ57%前後である。同居世帯の父親は、「40歳代」が56%と多い。母親の年齢は各学年ともに「30歳代」が多く、共に30歳代の両親が多いが、父親が40歳代で母親が30歳代の世帯も多い。

親の職業 ■ 父親は「給与生活者」が72%と多くを占めており、「自営業」が14%で続いている。一方、母親は「パート・アルバイト」が44%、「専業主婦」が27%、「給与生活者」が14%と、就学前児童保護者に比べて就業率が高い。両親の就業状況は、「共稼ぎ世帯」が70%に上り、「共稼ぎ世帯」の割合は就学前児童保護者よりも30%高い。

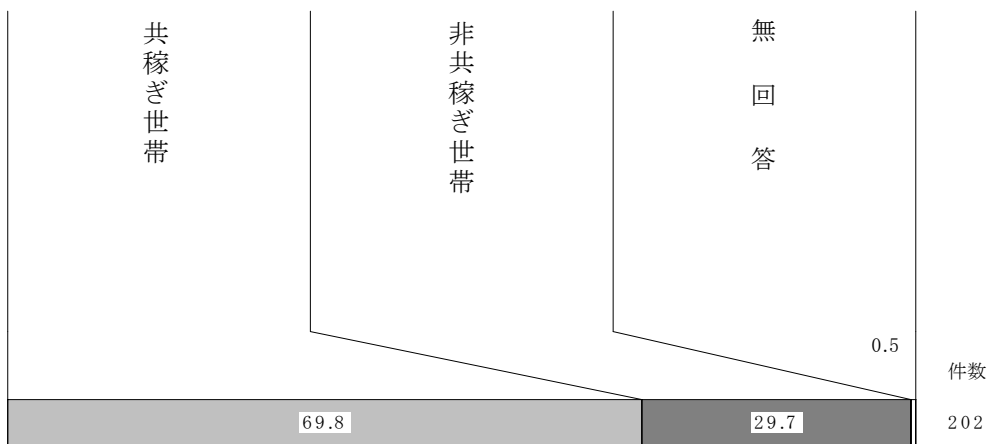
問4(2) 父親の職業 [%]



問4(2) 母親の職業 [%]



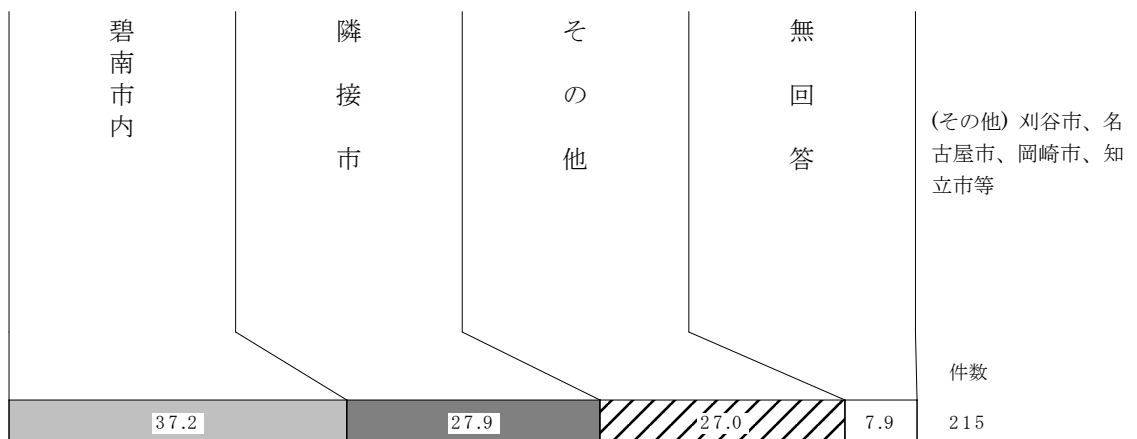
問4(2) 両親の就業状況 [%]



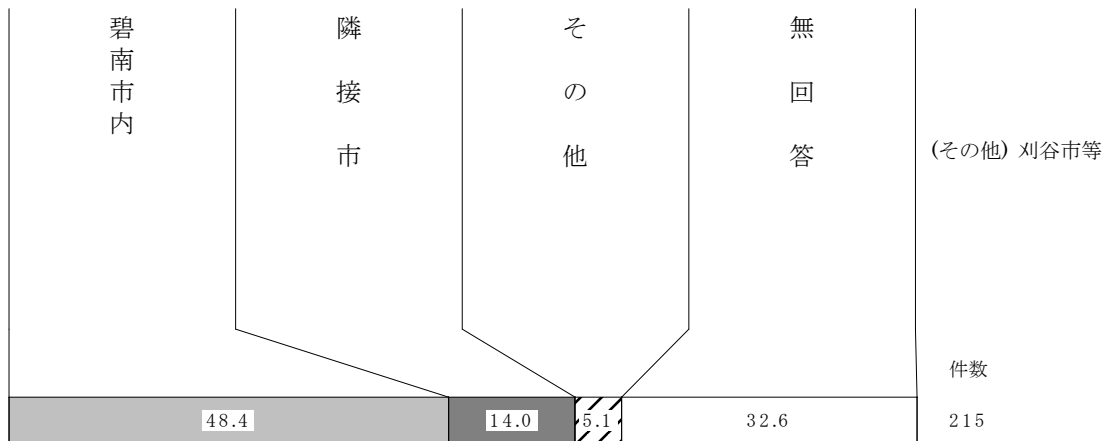
全般的に父親の職業は「給与生活者」が多いが、同居世帯の父親や棚尾地区の父親は「自営業」の回答がそれぞれ18%、24%とやや高い。一方、母親の職業は、各学年ともに「パート・アルバイト」の割合が高く、3年生の母親は48%とやや高い。親子だけの世帯の方が、「パート・アルバイト」と「専業主婦」の割合が同居世帯よりもやや高く、同居世帯の母親は、「農林漁業」や「自営業」にも回答がみられる。

勤務地 ■ 父親は「碧南市内」が37%と最も多く、「隣接市」が28%、「その他」が27%と就学前児童保護者と同様で、母親の勤務地も就学前児童保護者同様に「碧南市内」が多く、その割合は48%に上る。

問4(3) 父親の勤務地 [%]



問4(3) 母親の勤務地〔%〕



父親の勤務地は「その他」が就学前児童に比べてやや多いものの、「碧南市内」が多く、3年生の父親は「碧南市内」が31%、新川地区の父親は44%と特に高い。母親の勤務地は「碧南市内」が48%で半数近くを占めており、大浜地区と棚尾地区の回答者はそれぞれ58%を超えている。共稼ぎ世帯では、両親ともに「碧南市内」で勤務する割合が高い。

④ 居住地区

居住地区■「新川地区」が18%と最も多く、ついで「中央地区」「大浜地区」（それぞれ17%）、「鷺塚地区」（16%）などの順となっている。

問4(4) 居住地区〔%〕



「新川地区」と「鷺塚地区」「西端地区」は、親子だけの世帯が多く、同居世帯は「大浜地区」で61%と高い。

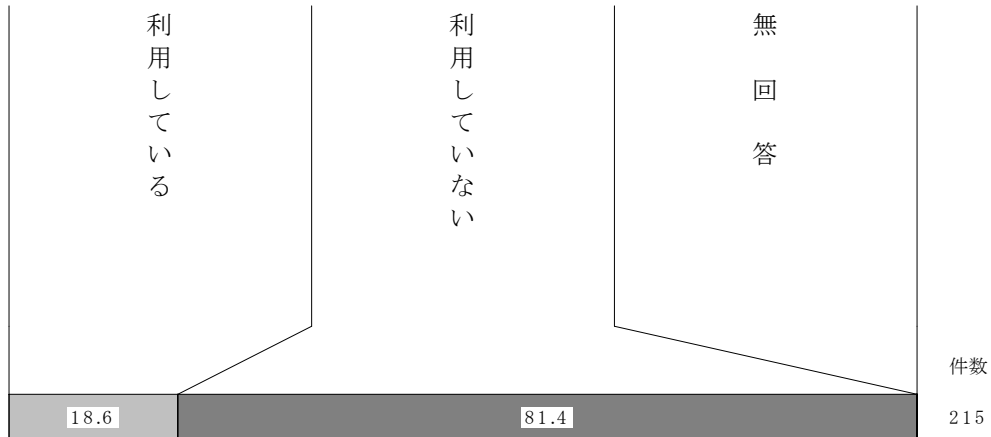
### III. 2 児童クラブの利用状況と希望

- 利用者は19%で、平日5日利用している子どもが多く、利用者は利用できる学年の延長を望む回答が多くみられる。土曜日の利用者は9%である。
- 平日の利用意向は50%近いが、費用がかかっても利用したいと適当な費用負担なら利用したいという回答者が26%を占めている。

#### ① 平日の利用状況

平日の利用 ■児童クラブを「利用している」割合は19%である。

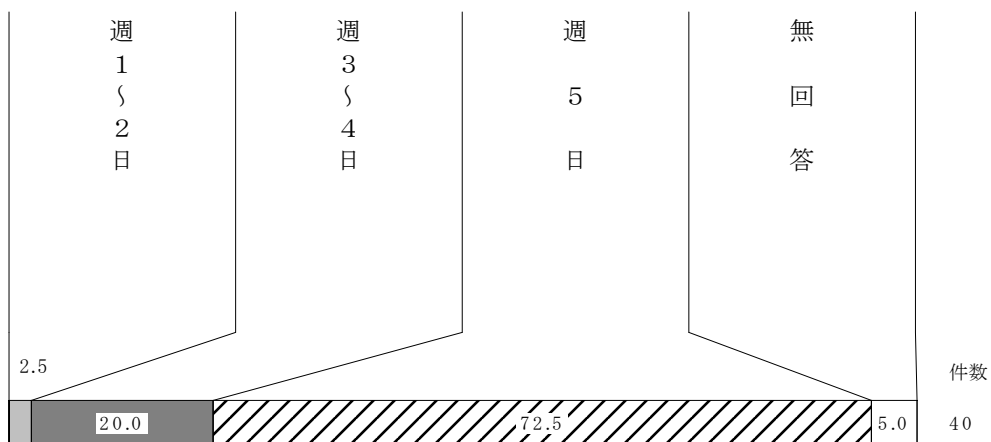
問5 現状：平日の利用〔%〕



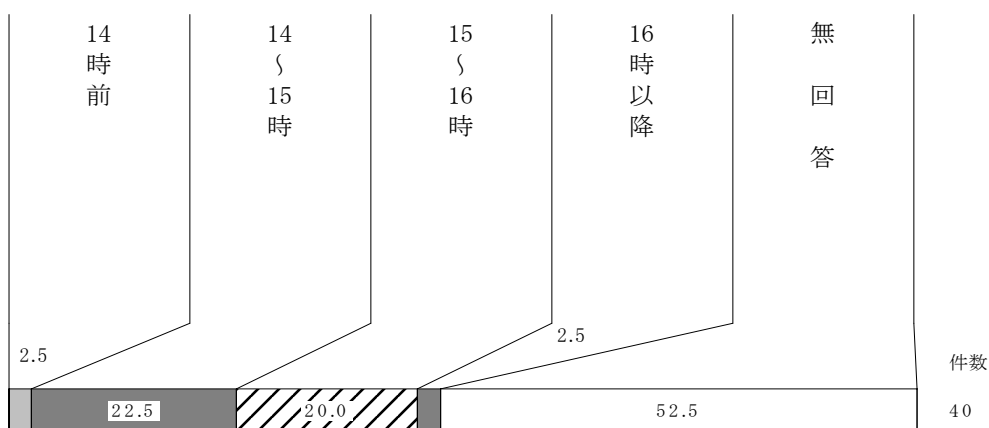
利用率は学年が上がると低下しており、1年生は22%だが、2年生は20%、3年生は13%となっている。世帯の子ども数が1人の回答者は、利用率が29%と高い。共稼ぎ世帯の利用率は、26%と高く、鷺塚地区と西端地区の回答者は、それぞれ27%、25%である。

利用状況 ■「週5日」が73%と多くを占めているが、「週3～4日」が20%みられる。利用時間は「14～15時」と「15～16時」からの利用がそれぞれ20%を超えて多く、終了時間は「16～17時」が33%と最も多い。

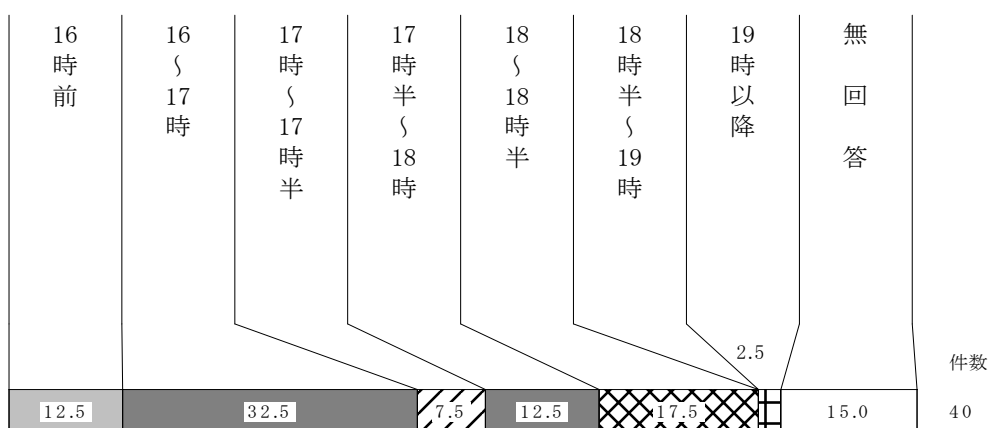
問5 現状：平日（1）利用日数〔%〕



問5 現状：平日（1）利用開始時間〔%〕



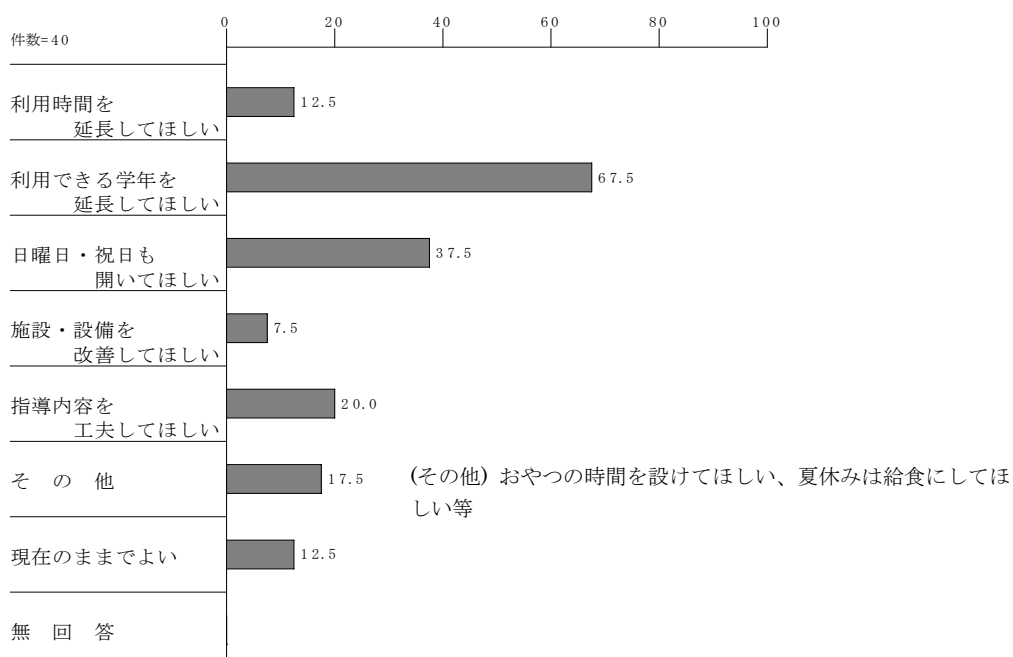
問5 現状：平日（1）利用終了時間〔%〕



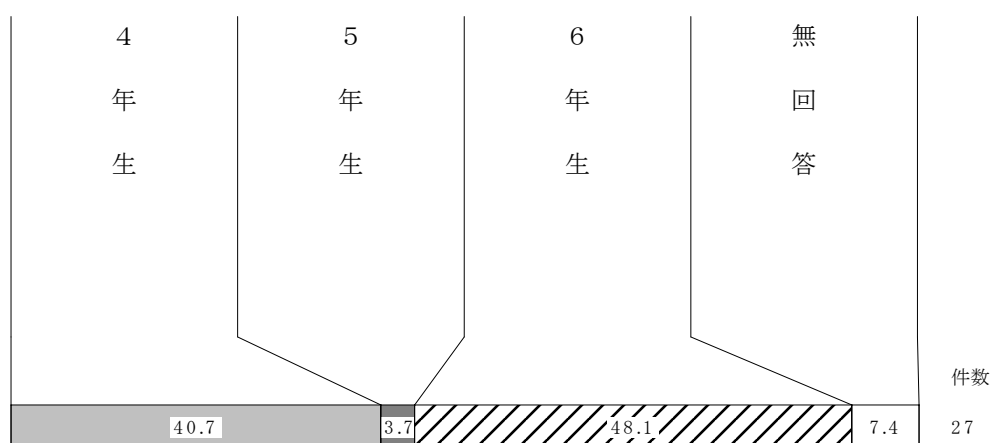
利用者は概ね「週5日」利用する子どもが多いが、3年生は「週3～4日」の利用者もみられる。開始時間は、学校の終了時間が異なることから、学年が上がると遅い時間に回答が移行している。

利用者の希望■「利用できる学年を延長してほしい」が68%と最も多く、具体的には「6年生」が48%、「4年生」が41%回答されている。その他では、「日曜日・祝日も開いてほしい」が38%、「指導内容を工夫してほしい」が20%回答されている。

問5 現状：（2）利用者の希望〔%・複数回答〕



問5 現状：(2) 利用終了の学年 [%]

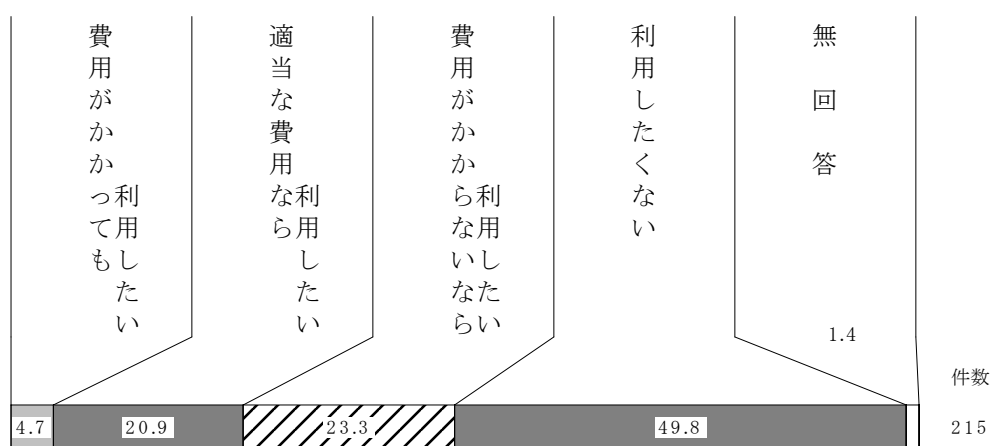


各学年ともに、「利用できる学年を延長してほしい」という回答が多くみられるが、3年生の利用者はその割合が高く、2年生の利用者は、この他に「現在のままでよい」や「日曜日・祝日も開いてほしい」などが回答されている。また、「利用できる学年を延長してほしい」と「日曜日・祝日も開いてほしい」という回答は、親子だけの世帯で多く回答されている。2・3年生の利用者は、「6年生」まで利用学年の延長を希望する回答が多い。

## ② 平日の利用希望

平日の希望 ■50%が「利用したくない」と回答しており、利用希望者では、「費用がかからないなら利用したい」が23%、「適当な費用なら利用したい」が21%で僅差である。

問6 希望：平日の希望 [%]

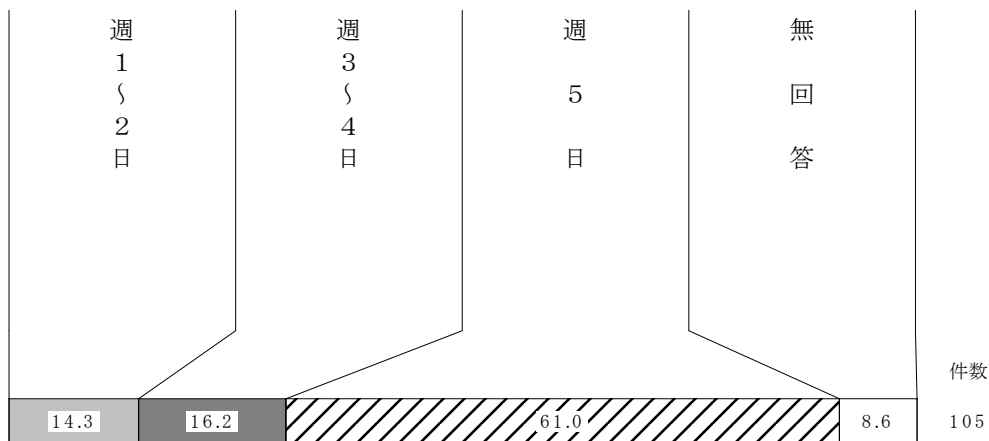


「費用がかからないなら利用したい」と回答しているのは、1年生の回答者で34%と多く、「利用したくない」と僅差となっている。学年が上がると、「利用したくない」割合が上昇し、3年生では64%に上る。現在児童クラブを利用している回答者、共稼ぎ世帯の回答者は、今後の利用希望が高い。

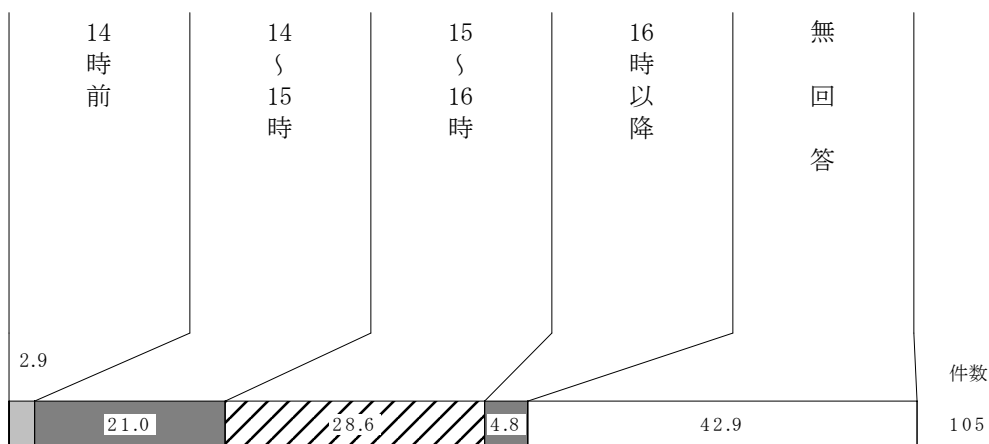


希望内容■「週5日」が61%と多いが、現在の利用者よりも割合は低い。希望時間は「15～16時」が29%、「14～15時」が21%と利用状況と同様だが、希望終了時間は「17時～17時半」が27%、「18～18時半」が22%と、現在の利用終了時間よりも遅い時間帯に回答が多く分布している。

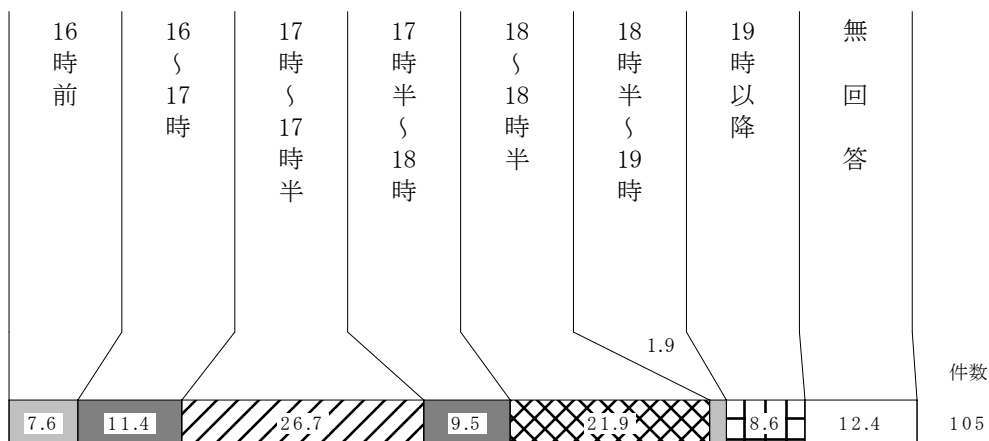
問6 希望：平日（1）希望日数 [%]



問6 希望：平日（1）希望開始時間 [%]



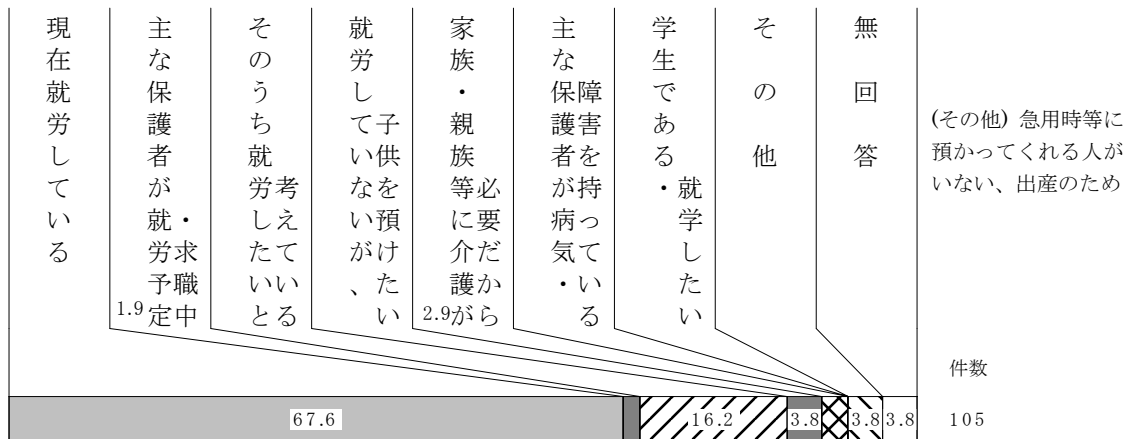
問6 希望：平日（1）希望終了時間 [%]



希望利用日は利用状況に比べ広く分布しており、中央地区や大浜地区の希望者は、「週1～2日」が比較的多く回答されている。共稼ぎ世帯の利用希望者は、「週5日」の希望が多いが、非共稼ぎ世帯の利用希望者の回答は、「週5日」を中心に「週1～2日」にもみられる。時間帯は現在の利用状況と類似しているが、希望終了時間は、2・3年生の希望者と中央地区の希望者で「18～18時半」の回答が増えている。

希望理由 ■ 「現在就労している」が68%を占め最も多く、「そのうち就労したいと考えている」が16%で続いている。

問6 希望：(2) 利用希望理由 [%]

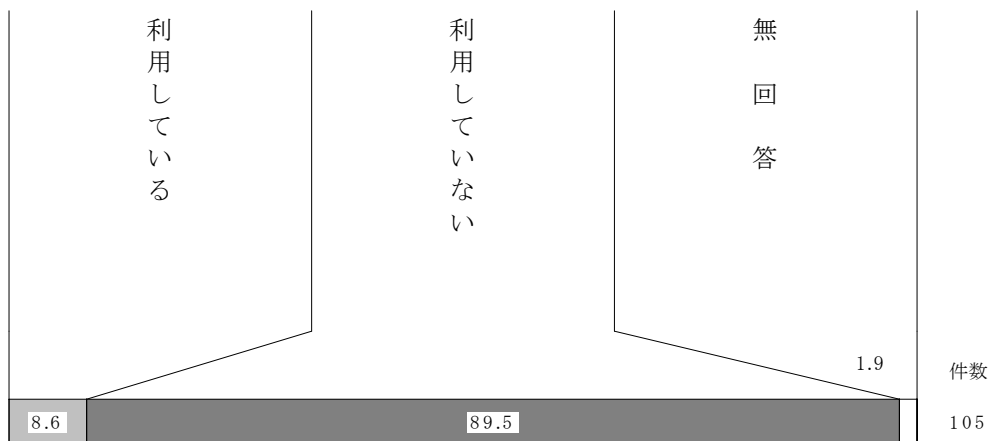


同居世帯の利用希望者、現在就業している利用希望者、共稼ぎ世帯の希望者は、「現在就労している」という回答が多い。

### ③ 土曜日の利用状況

土曜日の利用 ■ 「利用している」は9%と、平日に比べて10%低下している。

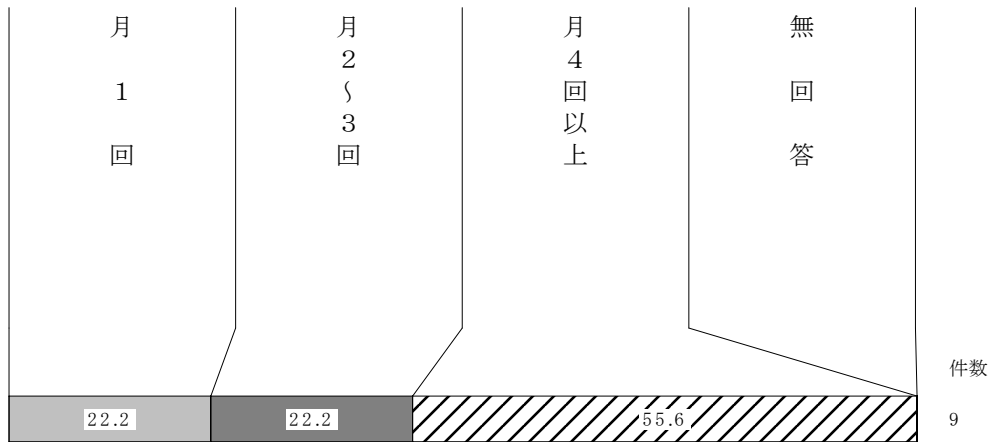
問7 現状：土曜日の利用 [%]



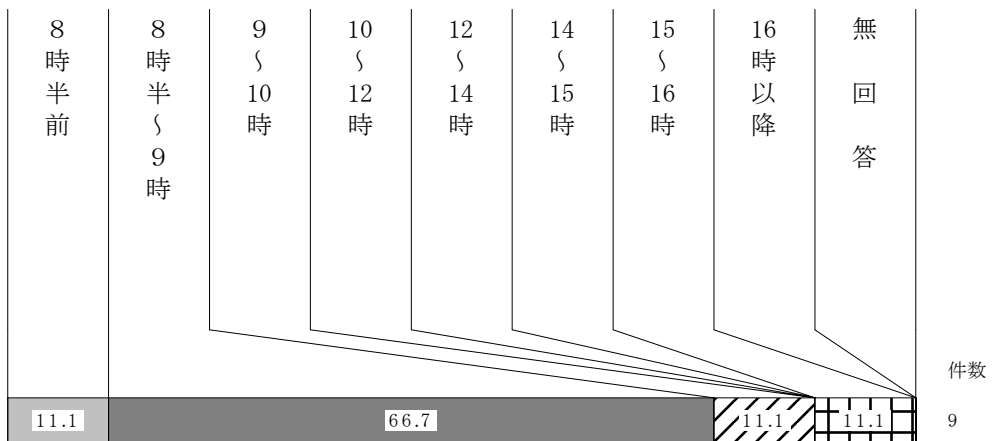
土曜日の利用者は、全員が平日も利用しており、今後も費用がかかっても利用したいなど利用希望が高く、必要度が高い利用者が多いことがうかがえる。

土曜日の利用状況 ■ 「月4回以上」が56%となっており、開始時間は「8時半～9時」が67%と多くを占め、終了時間は「16～17時」と「17時半～18時」が多い。

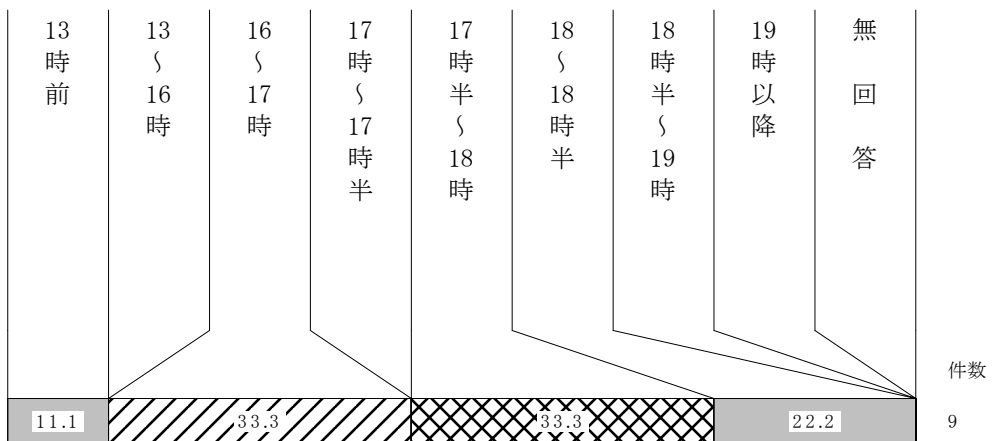
問7 現状：土曜日（1）利用日数 [%]



問7 現状：土曜日（1）利用開始時間 [%]



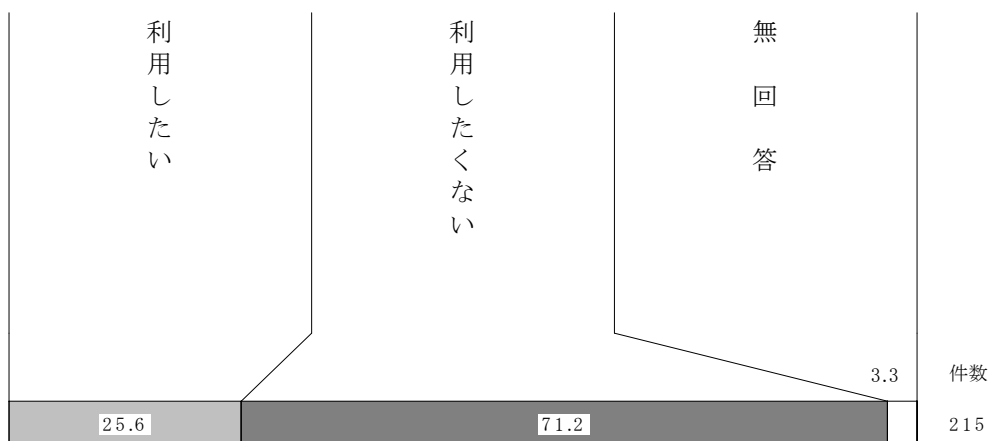
問7 現状：土曜日（1）利用終了時間 [%]



④ 土曜日の利用希望

利用の希望 ■ 「利用したい」が26%と、利用状況に比べて大幅に増えている。

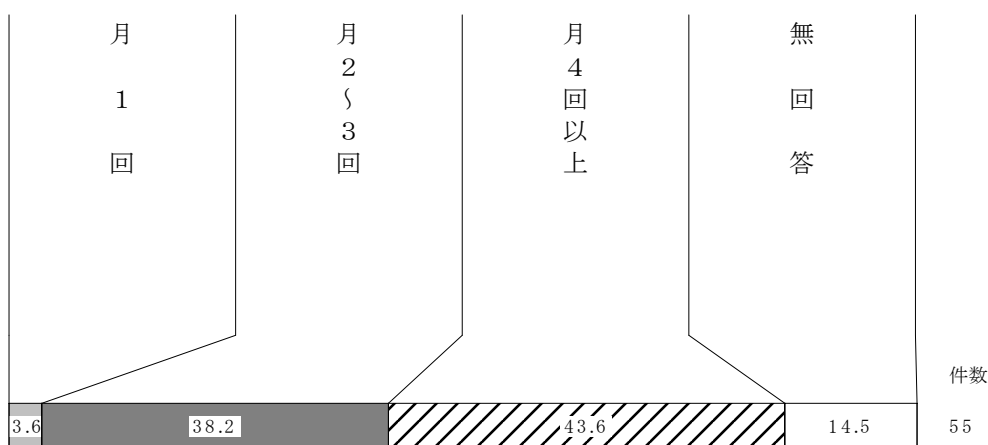
問8 希望：土曜日の利用 [%]



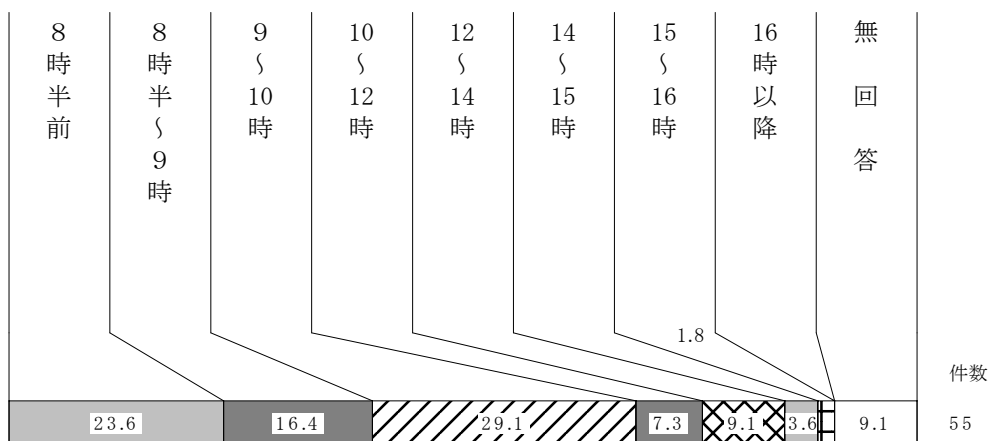
現在土曜日に児童クラブを利用している回答者は、今後の利用希望が高く、日進地区の回答者も希望率が35%、共稼ぎ世帯の希望率は29%である。

希望内容 ■ 「月4回以上」が44%、「月2～3回」が38%で続いている。希望開始時間は「9～10時」が29%、「8時半前」が24%で多く、希望終了時間は「13時前」や「13～16時」「17時～17時半」などに広く回答されている。

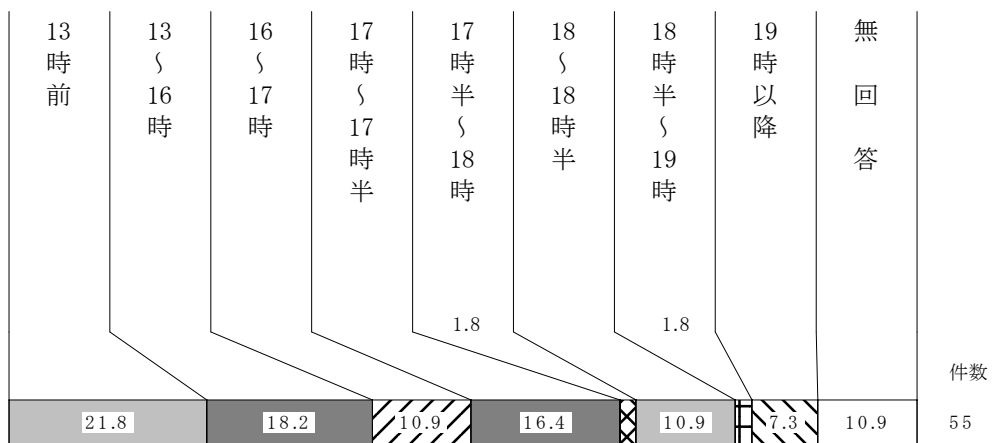
問8 希望：土曜日 (1) 希望日数 [%]



問8 希望：土曜日 (1) 希望開始時間 [%]



問8 希望：土曜日（1）希望終了時間〔%〕

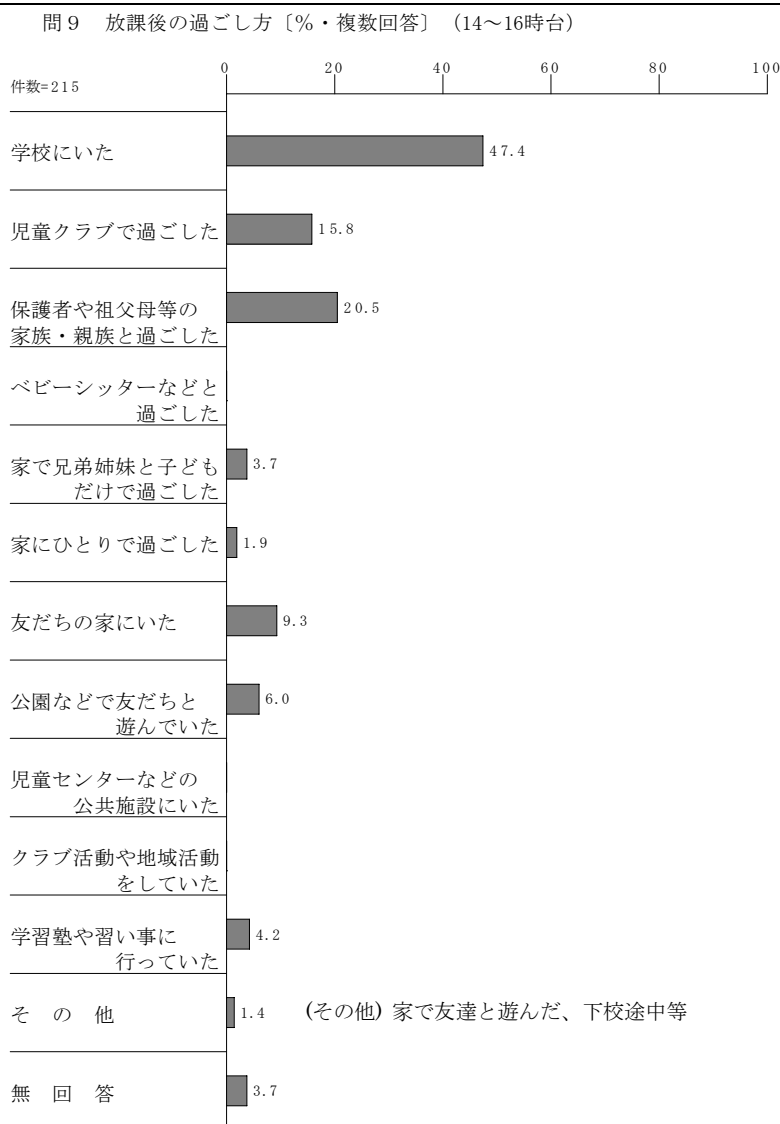


### III. 3 小学生の日常生活と一時預かり

- 放課後の過ごし方は、学年が上がると家で過ごす割合が低下し、学習塾や習い事、友達と遊ぶなど過ごし方が多様になり、18時以降は家庭で過ごしている子どもが多い。
- 平日・休日ともにテレビやビデオをみたり、テレビゲームをして過ごす子どもが多い。平日は1.35時間、休日は2時間程度が平均の遊び時間となっている。
- 泊まりがけで子どもを預けたことがあった世帯は14%で、ほとんどが親族等に預けている。

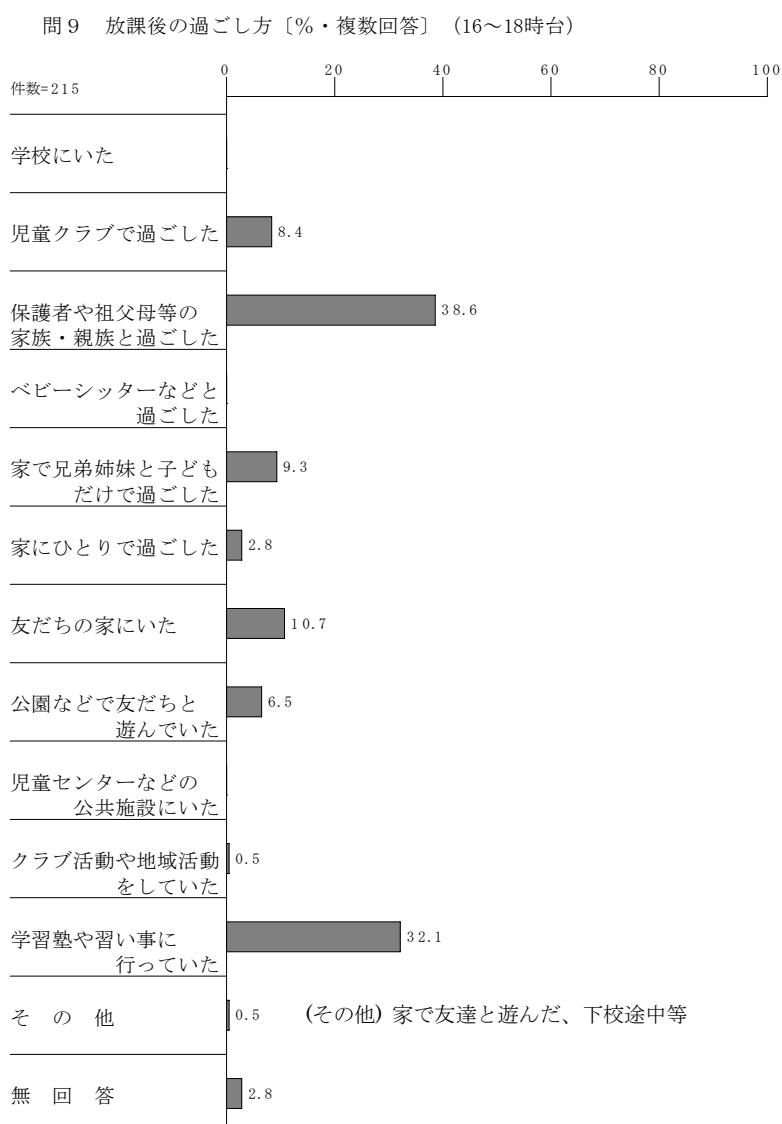
#### ① 放課後の過ごし方

14～16時台 ■「学校にいた」が47%と最も多く、「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」が21%、「児童クラブで過ごした」が16%となっている。



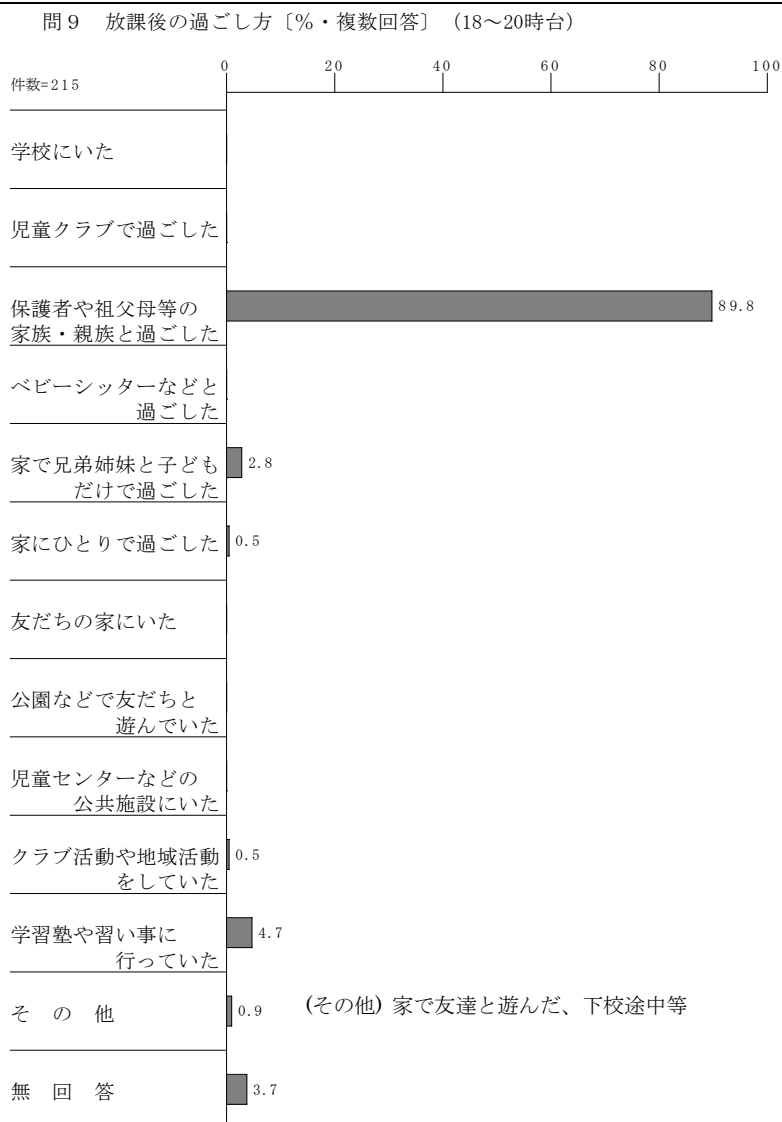
1年生は「学校にいた」と「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」割合が同程度だが、学年が上がると「学校にいた」割合が上昇しており、3年生は66%に上る。棚尾地区・鷺塚地区・西端地区の回答者、共稼ぎ世帯の小学生は、「児童クラブで過ごした」割合がそれぞれ20%を超えている。

16～18 時台 ■ 学校から帰宅し、「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」が 39% と最も多いが、「学習塾や習い事に行っていた」が 32% で続いている。



「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」と「学習塾や習い事に行っていた」という回答が多いが、学年が上がると「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」割合が低下傾向で、「学習塾や習い事に行っていた」が上昇しており、3年生は37%に上る。

18～20 時台 ■ 「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」が 90%とほとんどであるが、一部「学習塾や習い事に行っていた」という回答がみられる。

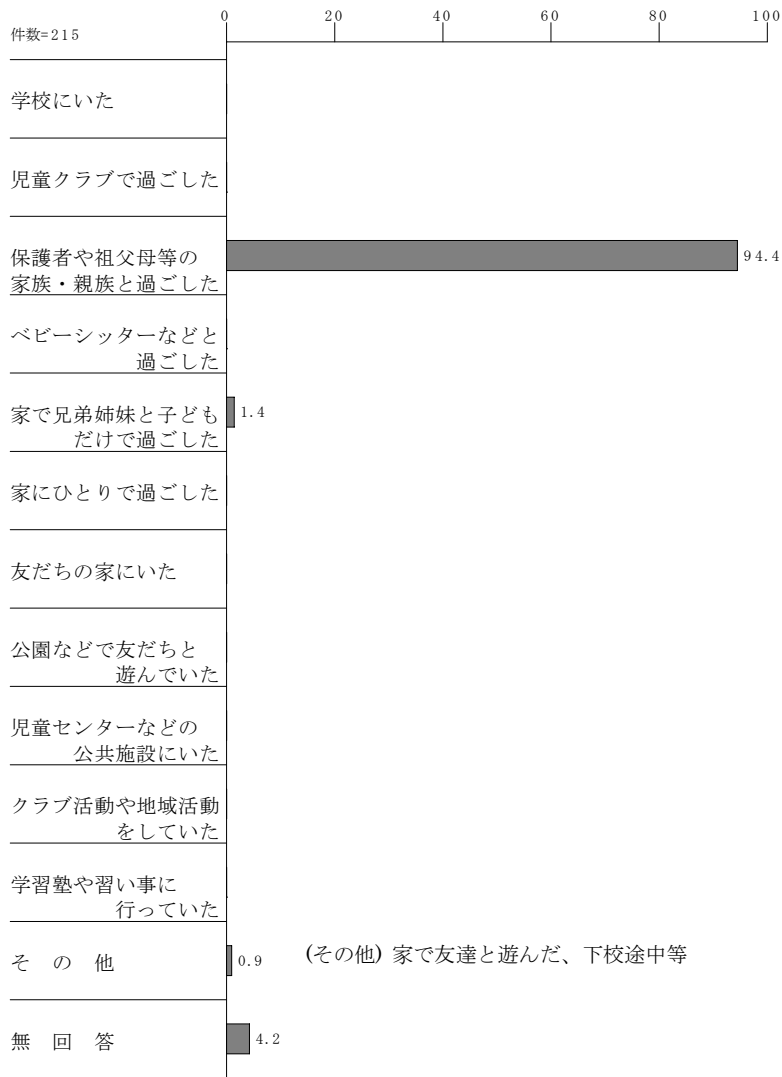


「学習塾が習い事に行っていた」という回答は、2・3年生の回答がやや多い。

20 時以降 ■ 「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」が 94%と、さらに上昇しているが、極少数「家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごした」という回答がみられる。

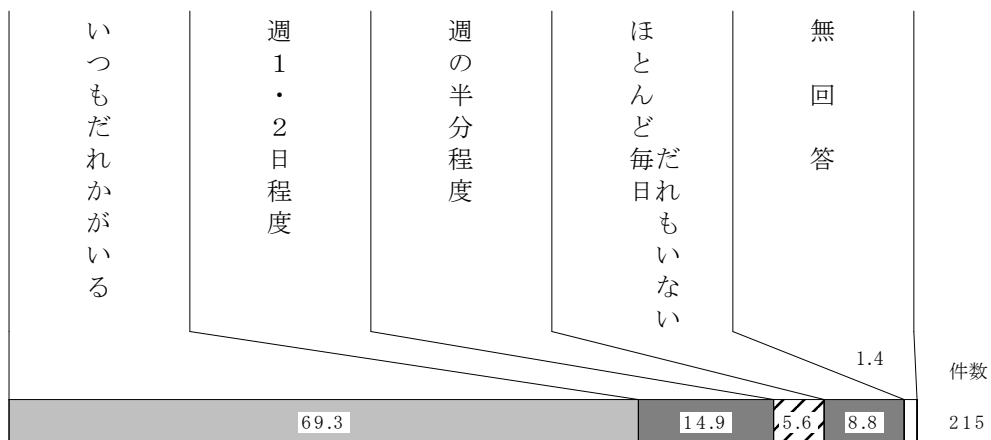


問9 放課後の過ごし方〔%・複数回答〕（20時以降）



放課後や休日の家族の不在 ■ 「いつもだれかがいる」が69%と多いが、「週1・2日程度」いないが15%、「ほとんど毎日だれもいない」が9%みられる。

問10 放課後や休日に家族がいない日〔%〕

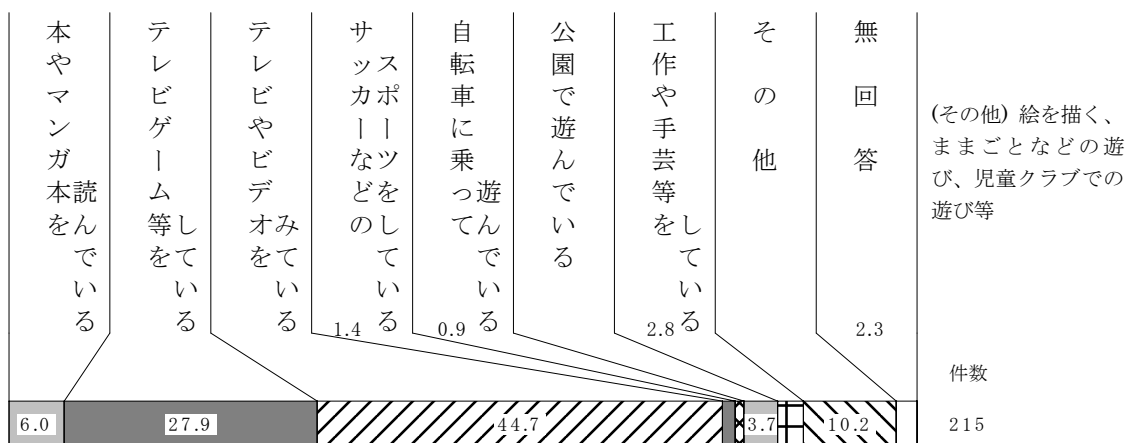


子どもの学年が上がると、「いつもだれかがいる」割合が低下しており、親子だけの世帯と共稼ぎ世帯の回答者、鷺塚地区の回答者で、「週1・2日程度」いない日があるという回答がやや多い。

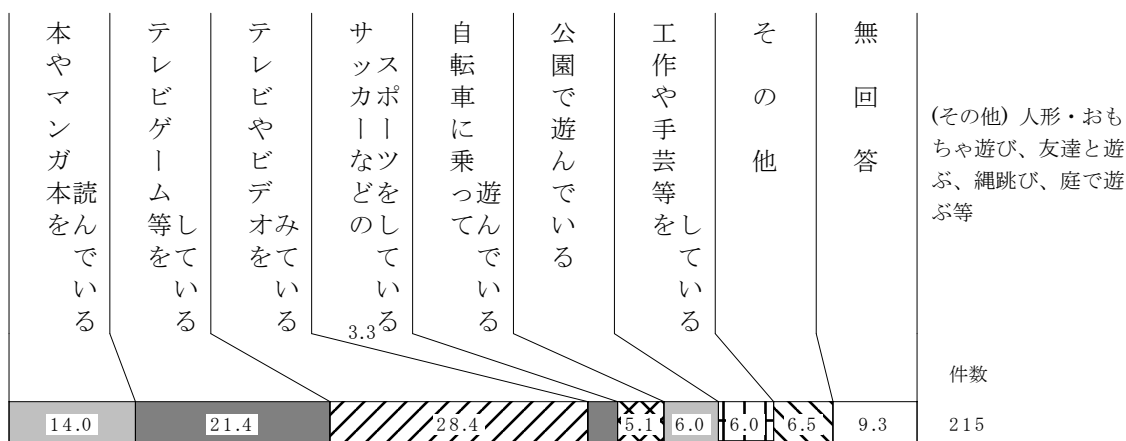
## ② 平日・休日の遊び方

平日 ■ 「テレビやビデオをみている」と「テレビゲーム等をしている」の2項目が最も多く回答されており、「テレビやビデオをみている」ことが多いことがわかる。それ以外では、「本やマンガ本を読んでいる」または「公園で遊んでいる」「自転車に乗って遊んでいる」などが比較的多くみられる。平日の遊び時間の平均は、1.35時間である。

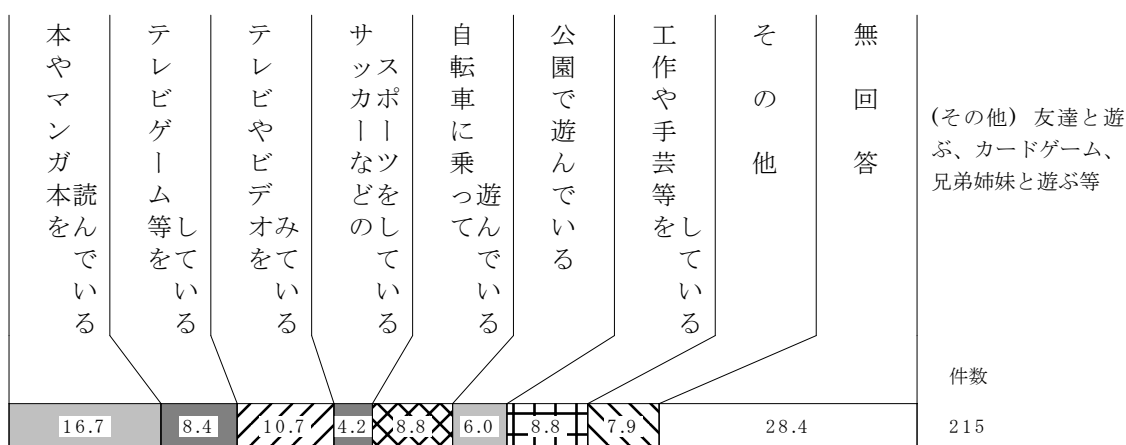
問11 平日の遊び方（1位） [%]



問11 平日の遊び方（2位） [%]



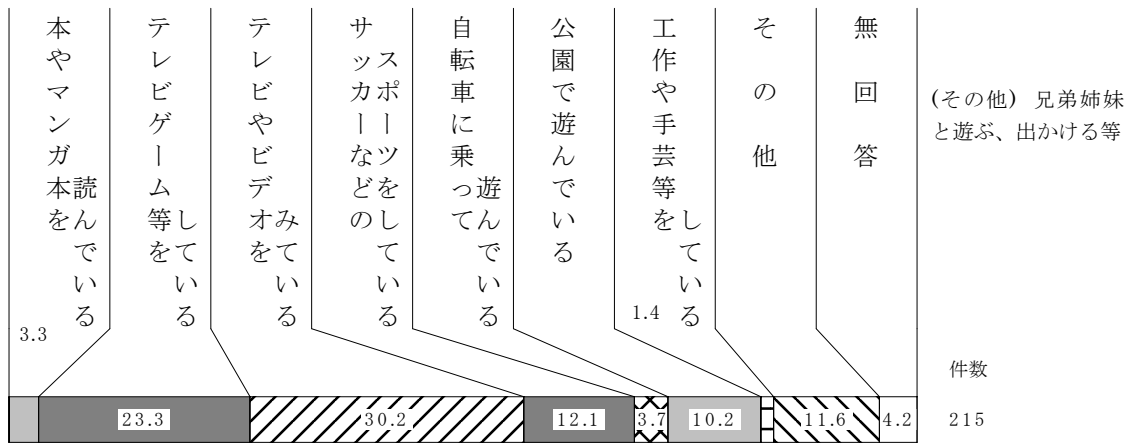
問11 平日の遊び方（3位） [%]



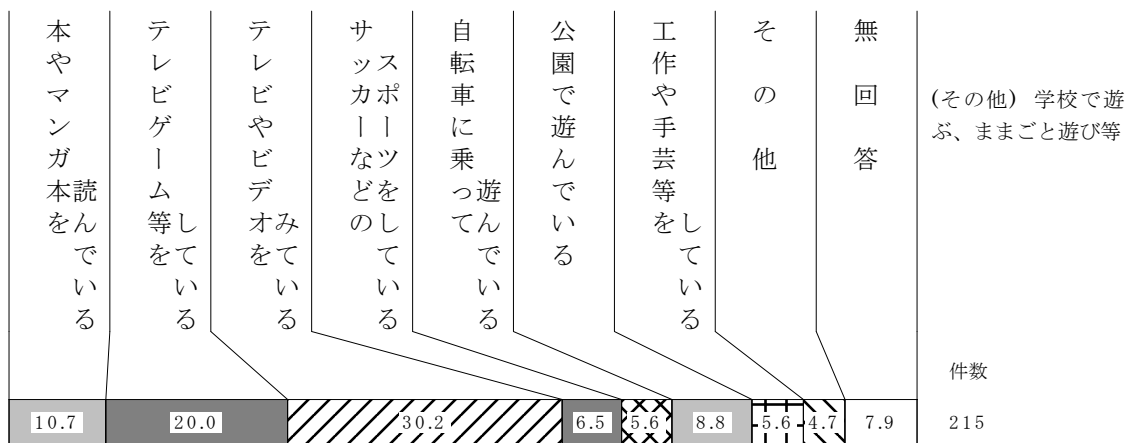
1年生は自宅でテレビやビデオをみたり、テレビゲーム等をしているという回答が多いが、学年が上がるとその割合は低下し、「公園で遊んでいる」という回答が増えている。同居世帯や共稼ぎ世帯の子どもの方が、自宅で本を読んだりテレビをみたりしているという回答が多い。

休日■平日と同様に、「テレビやビデオをみている」と「テレビゲーム等をしている」の2つの過ごし方が多く回答されている。しかし、割合は若干低下し、「本やマンガ本を読んでいる」の他、「サッカーなどのスポーツをしている」「公園で遊んでいる」という回答が微増している。休日の遊び時間の平均は、平日よりもやや多く、2.03時間である。

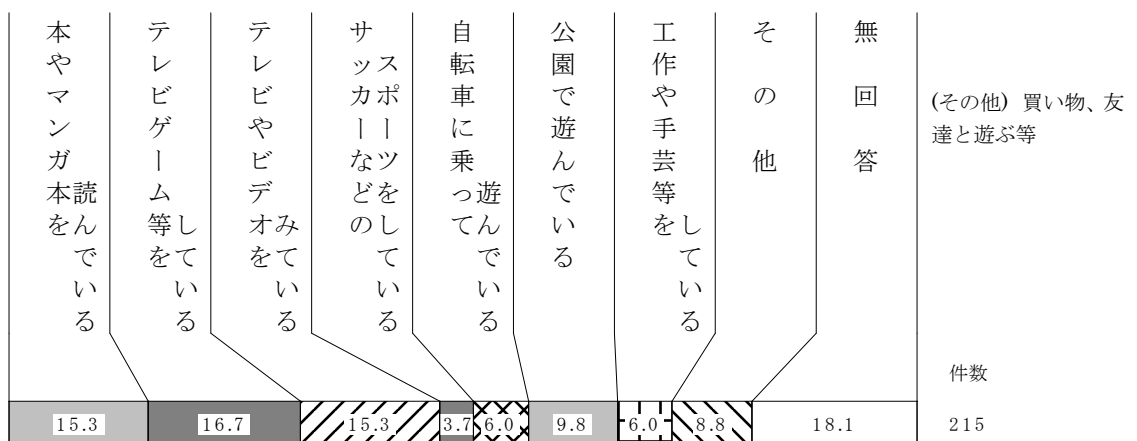
問11 休日の遊び方（1位） [%]



問11 休日の遊び方（2位） [%]



問11 休日の遊び方（3位） [%]

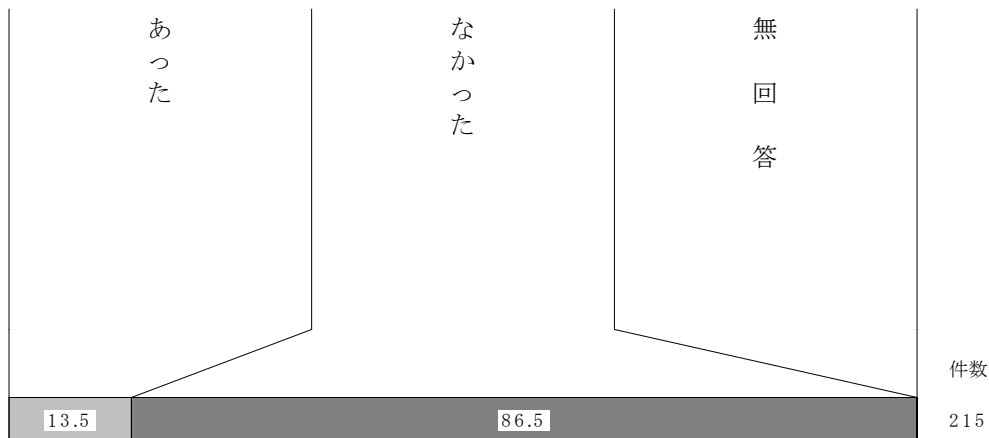


同居世帯と共稼ぎ世帯の子どもは、「テレビやビデオをみている」という回答が多くみられる。

### ③ 泊りで子どもを預けたこと

泊りで子どもを預けたこと ■ 預けたことが「あった」という回答が 14%みられる。

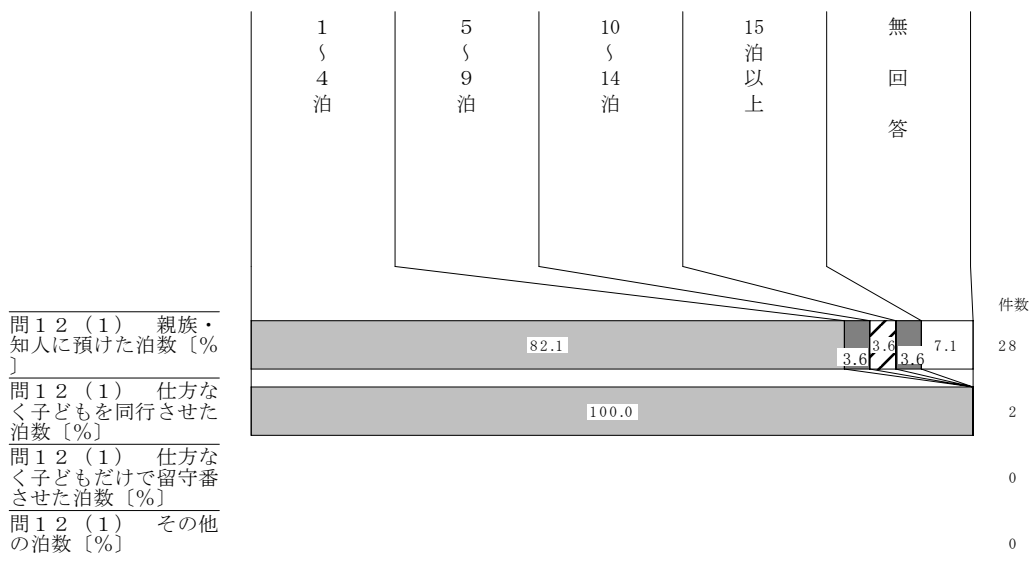
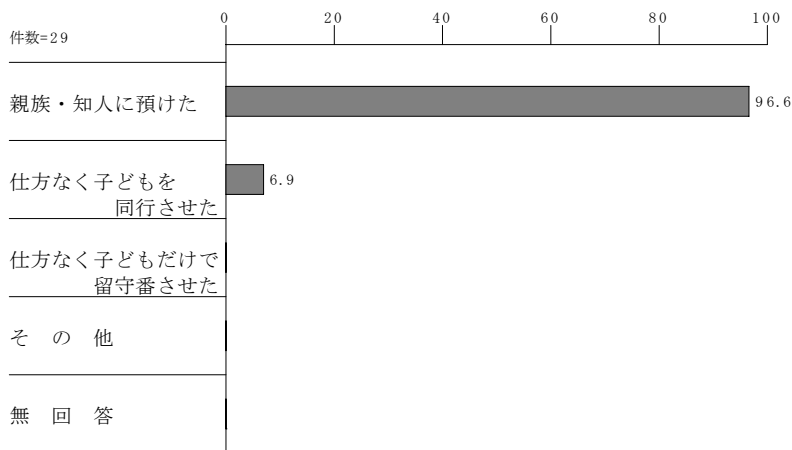
問 1 2 1年間で泊りで子どもを預けたこと [%]



1年生は「あった」という回答が21%と高く、学年が上がると低下している。また、親子だけの世帯で、「あった」という回答が18%となっている。

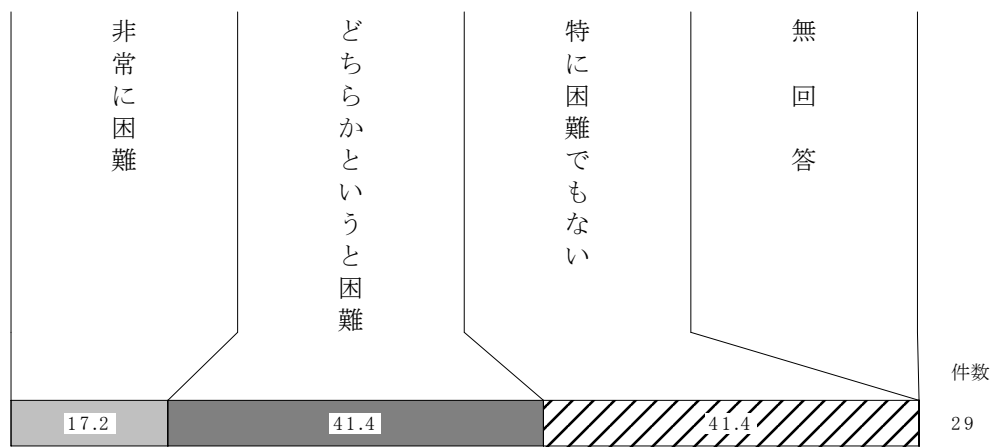
泊りで預けた場合の対処法 ■ 「親族・知人に預けた」が 97%とほとんどで、対処日数は「1～4泊」がほとんどである。

問 1 2 (1) 預けた場合の対処法 [%・複数回答]



困難度 ■ 「どちらかという困難」と「特に困難でもない」が41%で同率である。

問12(2) 困難度 [%]



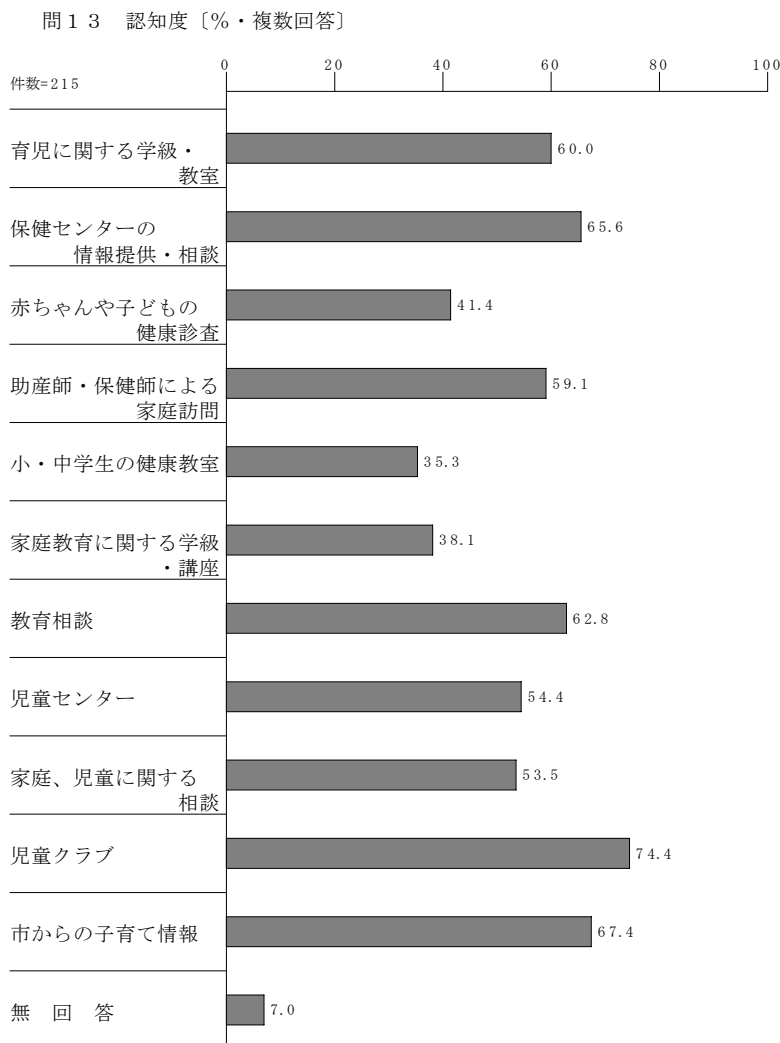
### III. 4 各種サービスと就学前の保育サービス

■全般的に各種サービスの認知度は高く、就学前の健診をはじめ、小・中学生を対象にしたサービスや家庭教育なども就学前児童保護者に比べて認知度は高いが、利用希望は低下している。

■就学前は保育園に通った小学生が多く、保育所利用者は3歳から、幼稚園利用者は3歳または4歳から通い始めた子どもが多く、利用した保育先に対する満足度は高い。

#### ① 認知度

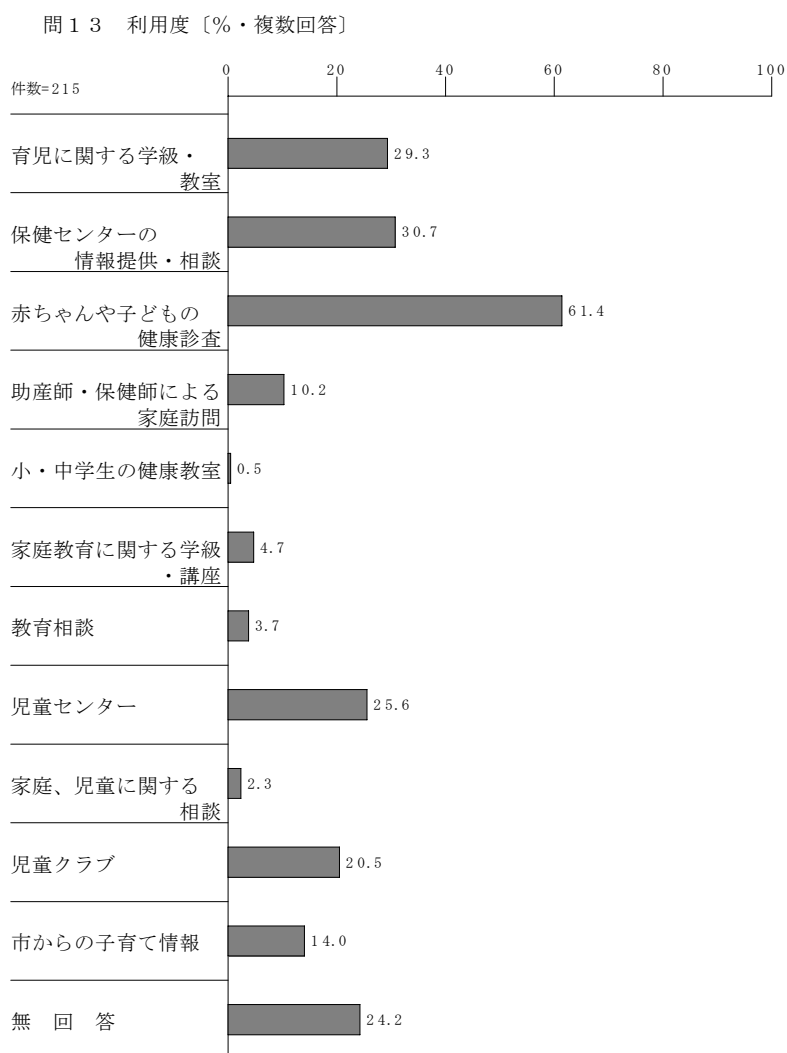
認知度 ■「児童クラブ」が74%と最も認知度が高く、「市からの子育て情報」「保健センターの情報提供・相談」「教育相談」「育児に関する学級・教室」などもそれぞれ60%を超えており、全般的な認知度は概ね高いといえる。



「教育相談」「児童センター」「家庭、児童に関する相談」については、学年が上がると認知度が上昇し、「児童クラブ」「市からの子育て情報」なども3年生の回答者で認知度が高い。「児童センター」と「教育相談」の認知度は、新川地区の回答者で67%と高い。非共稼ぎ世帯の方が、「育児に関する学級・教室」「保健センターの情報提供・相談」「児童クラブ」「市からの子育て情報」などの認知度が高い。

## ② 利用度

利用度 ■ 「赤ちゃんや子どもの健康診査」が61%と最も利用が多く、「保健センターの情報提供・相談」「育児に関する学級・教室」「児童センター」がそれぞれ30%前後で続いている。



同居世帯と共稼ぎ世帯の回答者は、「育児に関する学級・教室」の利用度が37%と高いが、「児童センター」「児童クラブ」は親子だけの世帯の回答者の利用度が高い。また、「児童クラブ」は共稼ぎ世帯の利用率が27%とやや高く、「児童センター」は柵尾地区と日進地区の回答者の利用率が高く、それぞれ50%弱が回答されている。

## ③ 利用希望

利用希望 ■ 利用希望は認知度・利用度に比べて低下し、「小・中学生の健康教室」が18%、「家庭教育に関する学級・講座」が13%、「児童センター」が11%となっている。

問 1 3 利用希望 [%・複数回答]

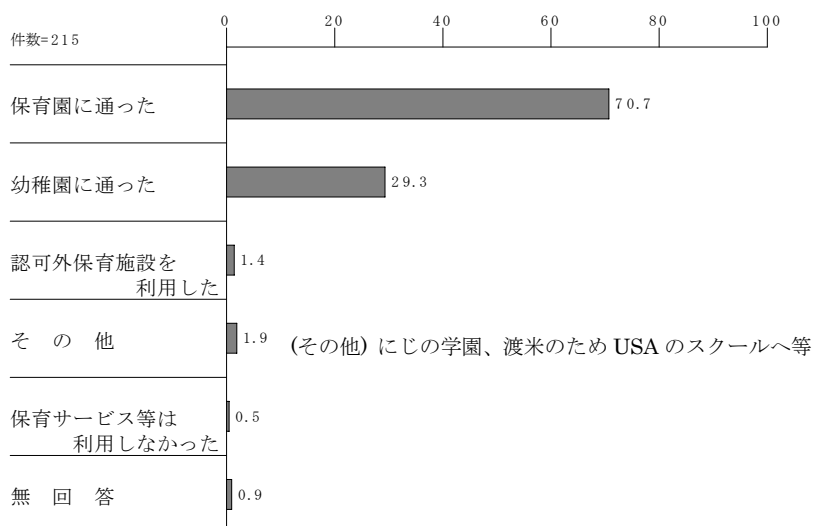


利用希望は全般的に無回答が多いが、「小・中学生の健康教育」と「家庭教育に関する学級・講座」は、大浜地区の回答者で割合がやや高く、「児童センター」と「市からの子育て情報」は、日進地区でやや多く回答されている。

#### ④ 就学前の保育サービス

利用保育先 ■ 「保育園に通った」が 71%と最も多く、「幼稚園に通った」が 29%で続いている。

問 1 4 就学前の保育サービス [%・複数回答]

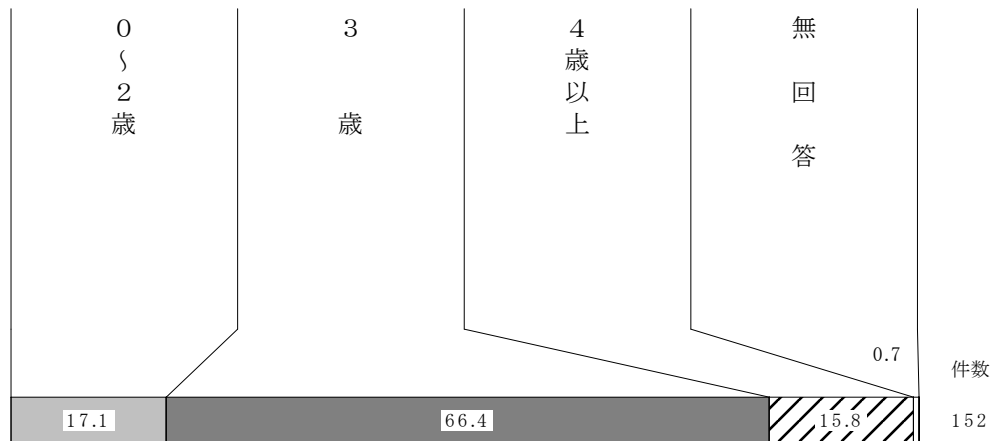




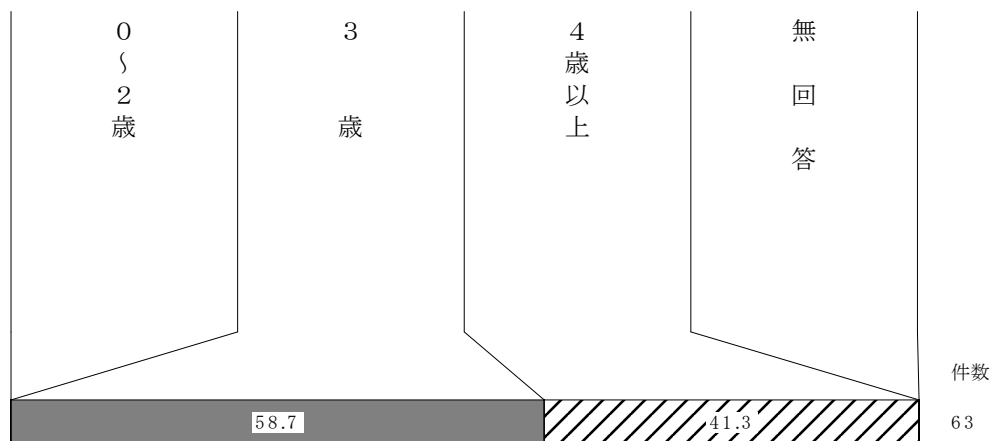
学年が上がると、保育園の利用歴が高まっており、3年生は73%、世帯の子どもが3人の世帯では77%に上る。「保育園に通った」割合は、新川地区と日進地区、西端地区で高い。共稼ぎ世帯は「保育園に通った」割合が76%と高く、非共稼ぎ世帯は、保育園の利用歴が55%、幼稚園が43%となっている。

就学前保育の利用開始年齢 ■ 保育園と幼稚園の利用者は、「3歳」からが多いが、保育園と認可外保育施設の利用者は、「3歳」未満から早期に通い始めている回答がみられる。

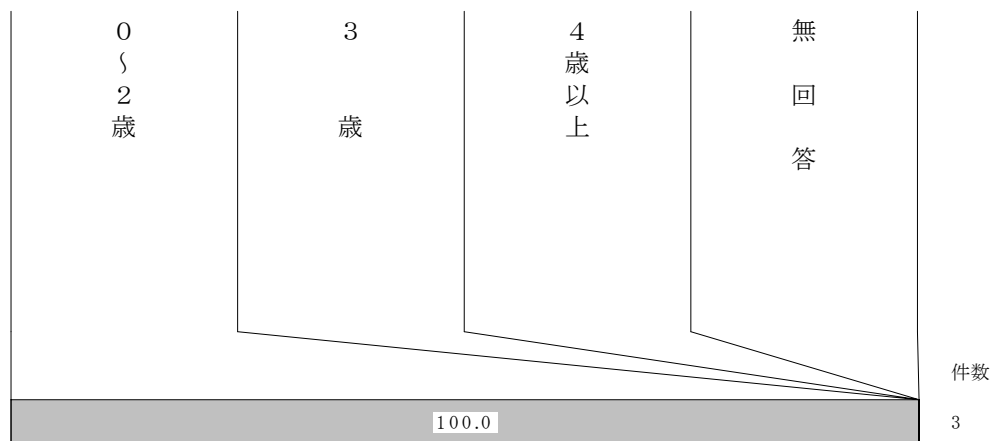
問 1 4 保育園に通った利用開始年齢 [%]



問 1 4 幼稚園に通った利用開始年齢 [%]

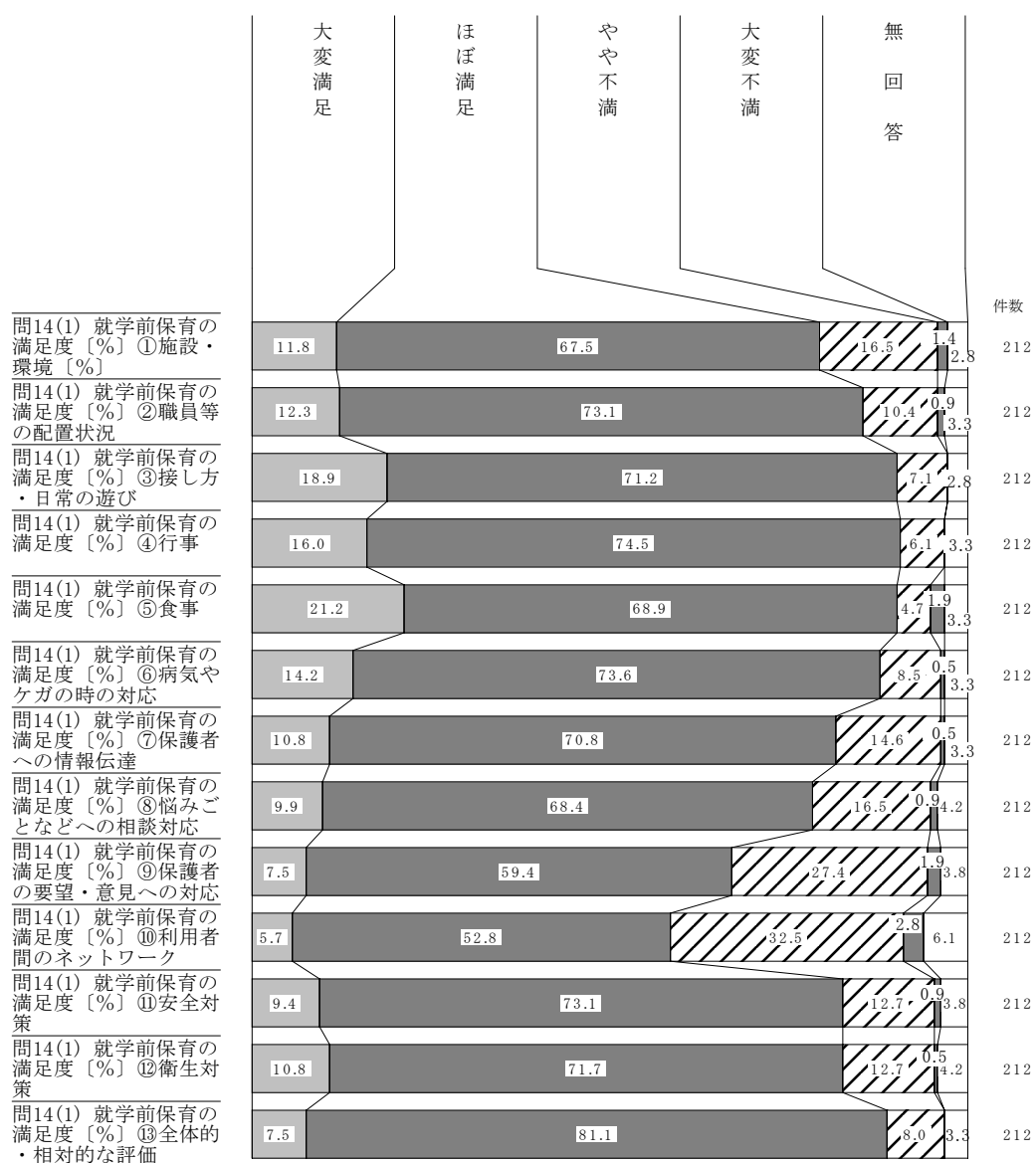


問 1 4 認可外保育施設に通った利用開始年齢 [%]



保育園利用者は、1年生と3年生が「3歳」からが多く、1年生は「0～2歳」が21%と高いが、2年生は「4歳以上」が24%と高い。共稼ぎ世帯の保育園利用者は、「0～2歳」から利用し始めた割合がやや高く、非共稼ぎ世帯の保育園利用者は「4歳以上」が30%を超えている。幼稚園利用者は、全員が3歳以上から利用しており、「4歳以上」の割合は学年が上がると増えている。

利用保育先の満足度■満足度（「大変満足」と「ほぼ満足」の計）が最も高い項目は、「行事」で91%、「接し方・日常の遊び」と「食事」がそれぞれ90%、「病気やケガの時の対応」が88%など、満足度が高く、なかでも「食事」は「大変満足」という回答が最も多い。また、「やや不満」という回答は、「利用者間のネットワーク」でやや多くみられ、満足と不満の内容は現在の利用者と同様の回答が多くみられる。



- ②職員等の配置状況は、中央地区で「やや不満」が19%とやや多く回答されている。保育園利用者の方がやや満足度が高い。
- ④行事については、幼稚園利用者が「大変満足」が25%回答されている。
- ⑤食事は、中央地区の回答者で「大変満足」が31%回答されている。
- ⑧悩みごとなどへの相談対応は、保育園利用者で「大変満足」「ほぼ満足」の割合が双方ともに幼稚園利用者よりも高い。
- ⑩利用者間のネットワークは、最も満足度が低い。同居世帯と保育所利用者で「やや不満」という回答が多い。
- ⑬全体的・相対的な評価は、保育先・学年に関わらず満足度が高い。

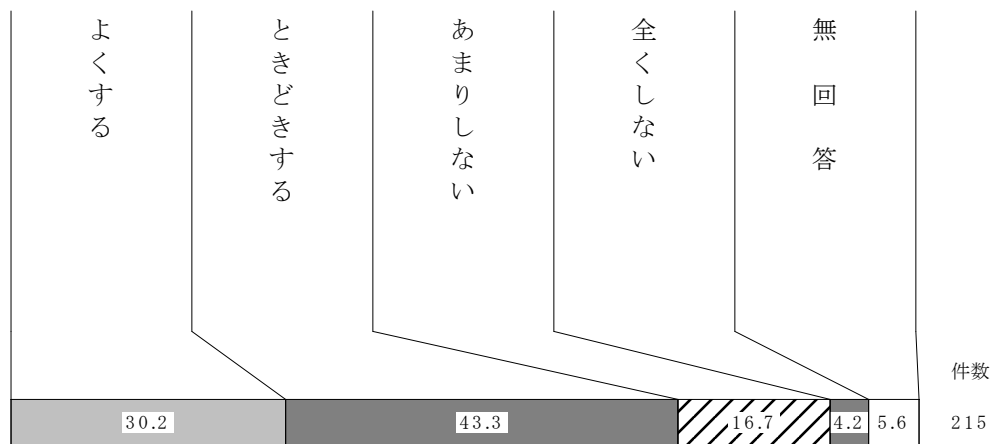
### III. 5 家庭・地域での子育て

- 74%の父親が育児に参加し、子どもと遊んだり、会話する父親は80%を超えているが、父親には遊び相手になってほしいという回答がみられる。
- ときどき子育てに不安や負担を感じる割合は、就学前児童の保護者よりもやや高く、教育や子どもの友達のこと、叱りすぎが悩みごととして多く回答されているが、ほとんどの保護者に相談相手があり、地域の友人等から情報を得る手段を保持している。
- 回答者は、声かけや危ないことへの注意などの関わりを地域に望んでいる。
- 理想の子ども数を実現しにくくしている主な要因は、経済的な負担と仕事・育児・家事の両立の難しさが回答されており、家族の協力の重要性が指摘されている。

#### ① 父親の育児参加

父親の育児参加 ■「よくする」が30%、「ときどきする」が43%で、あわせて74%となる。「あまりしない」という回答が17%みられる。

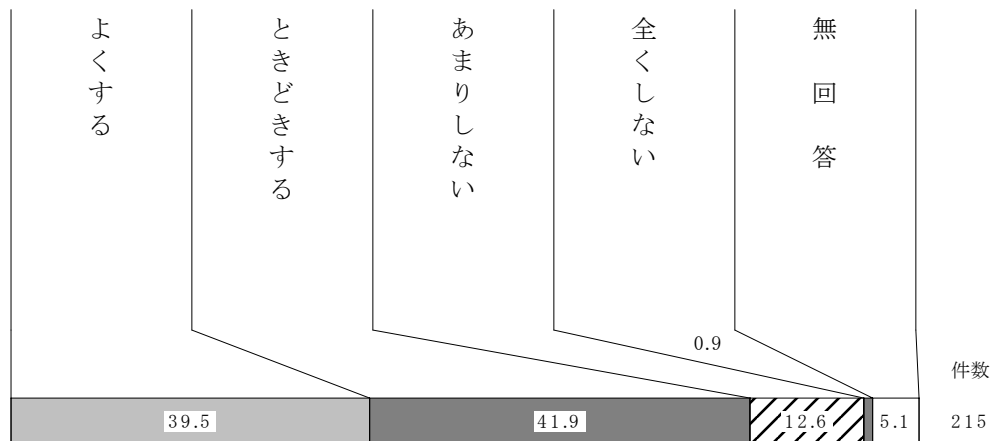
問15 父親の育児参加 [%]



親子だけの世帯の方が、「よくする」割合が高い。また、中央地区の父親は、「あまりしない」割合が30%と高い。

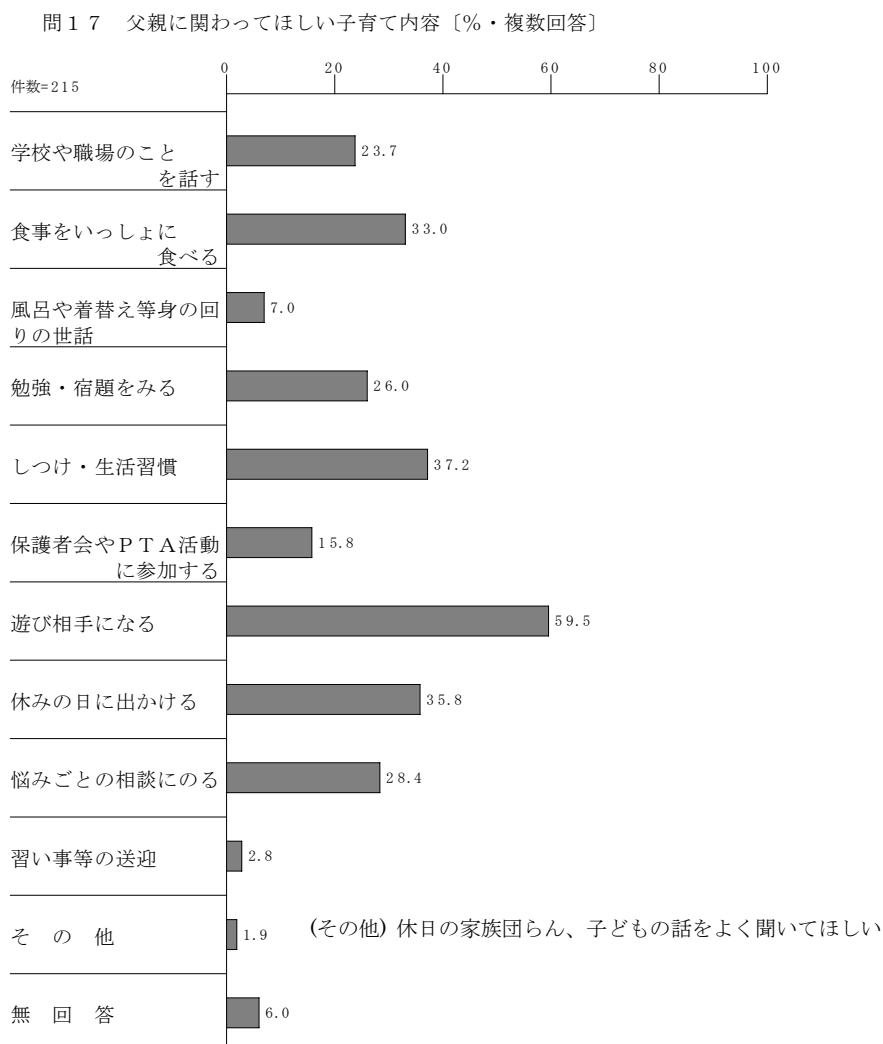
父親の子どもとの遊び、会話 ■「よくする」が40%、「ときどきする」が42%で、あわせて81%となり、就学前児童保護者と同程度である。

問16 父親の子どもとの遊び、会話 [%]



1・3年生は「よくする」割合の方が高いが、2年生は「ときどきする」割合が高い。親子だけの世帯の方が、遊びや会話の頻度は若干高い。父親の育児参加頻度が高い世帯は、子どもとの遊び、会話の頻度も高い。

父親に関わってほしい子育て内容■「遊び相手になる」が60%と最も多く、「しつけ・生活習慣」が37%、「休みの日に出かける」が36%、「食事をいっしょに食べる」が33%で続いている。就学前児童保護者と同様の回答が多いが、「休みの日に出かける」という回答は就学前児童保護者に比べてやや低い。

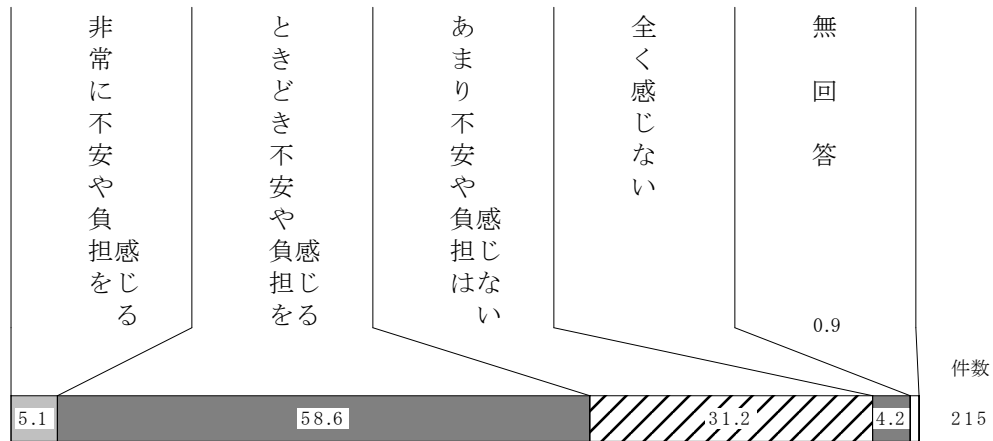


各学年で同様の回答分布となっているが、2年生の回答者は「しつけ・生活習慣」が48%と高く、父親が育児、遊びに関わる頻度が高い世帯でも多く回答されている。「学校や職場のことを話す」という回答は、親子だけの世帯は30%、同居世帯は17%と差異が大きい。父親が育児をあまりしない世帯では、「休みの日に出かける」が47%回答されている。

## ② 子育ての不安・負担

子育ての不安度・負担度 ■「ときどき不安や負担を感じる」が59%で、「あまり不安や負担は感じない」が31%回答されているが、就学前児童保護者に比べて不安や負担感がやや高い。

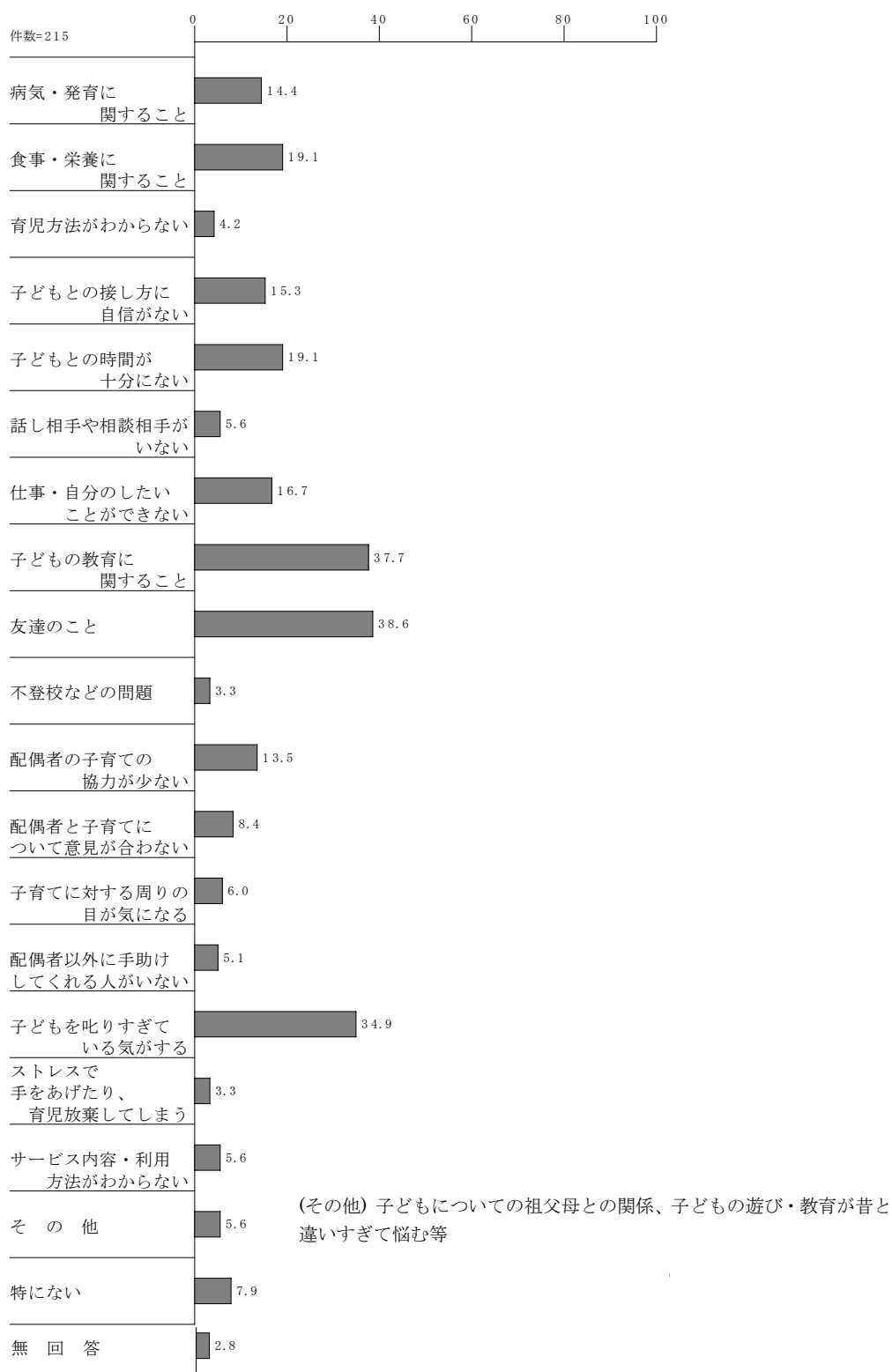
問18 子育ての不安度・負担度〔%〕



子どもが1人の世帯は、「ときどき不安や負担を感じる」と「あまり不安や負担は感じない」の差異が小さいが、子どもの人数が増えると、「ときどき不安や負担を感じる」割合が60%前後に上る。

子育ての悩み、気になること ■「友達のこと」が39%、「子どもの教育に関すること」が38%、「子どもを叱りすぎている気がする」が35%と、3項目の回答が僅差で多くみられる。その他では、「食事・栄養に関すること」と「子どもとの時間が十分でない」がそれぞれ19%回答されている。

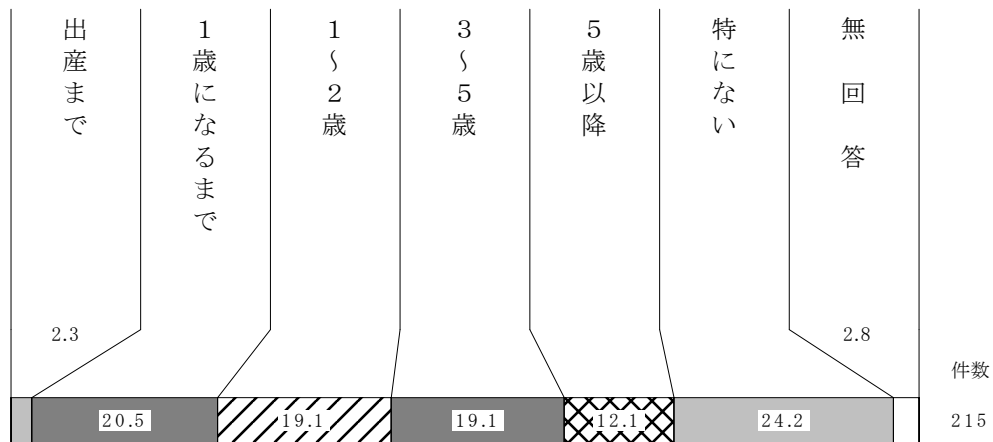
問19 子育ての悩み、気になること [%・複数回答]



学年に関わらず同様の回答分布となっているが、1年生の回答者で、「友達のこと」が47%とやや高く、2年生は「配偶者の子育ての協力が少ない」が24%である。子育ての不安度・負担度が高い回答者は、子育ての悩みや気になる項目が増え、割合も高い。

相談相手がほしかった時期■「特にない」という回答が24%だが、相談相手がほしかった時期は「1歳になるまで」が21%、「1～2歳」と「3～5歳」がそれぞれ19%回答されている。

問20 悩み・不安の相談相手がほしかった時期〔%〕

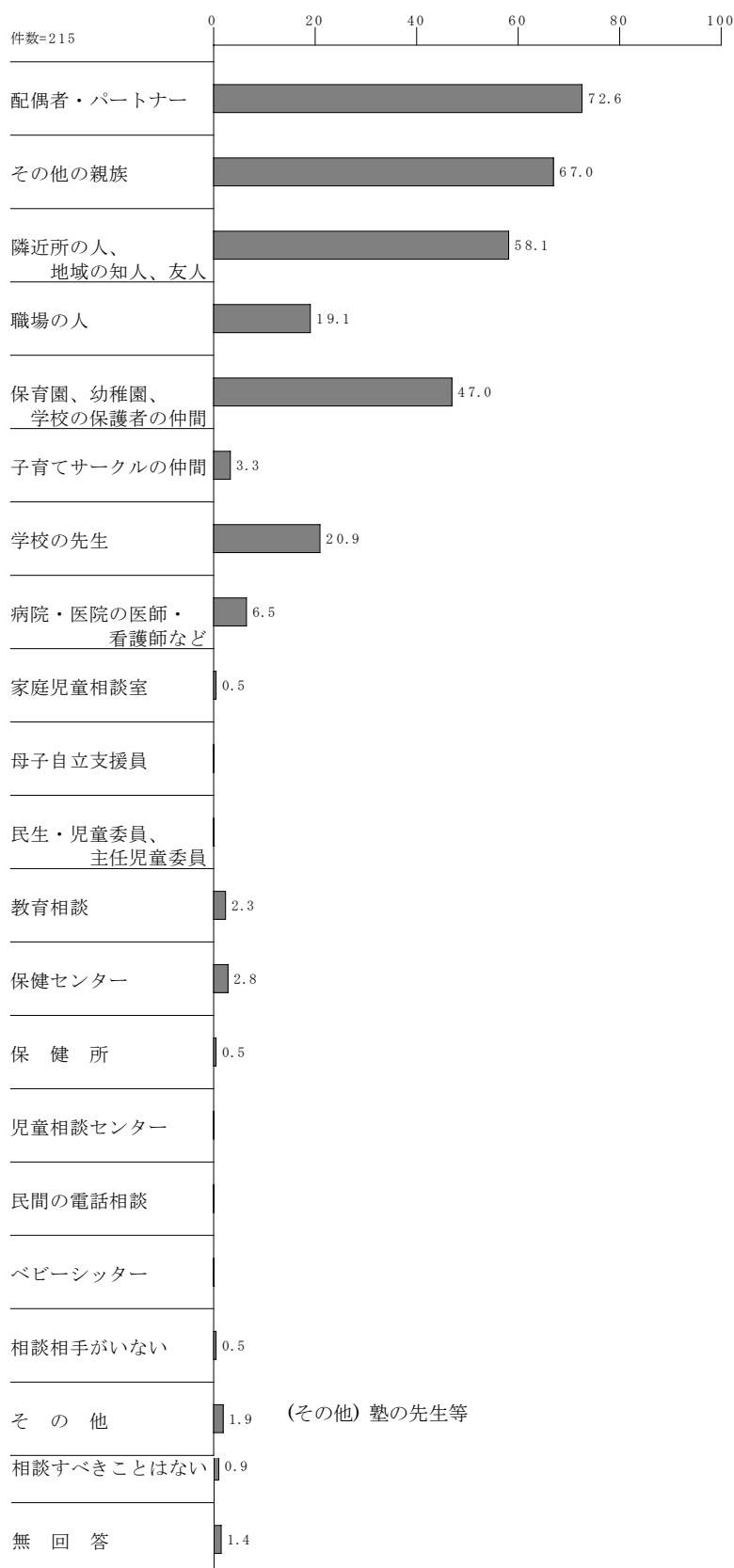


学年が上がると「特にない」という回答が微増しているが、1年生では「3～5歳」、3年生は「1～2歳」という回答が多い。また、同居世帯は「特にない」が多く回答されているが、親子だけの世帯は「特にない」割合が低下し、「1歳になるまで」から「3～5歳」がそれぞれ20%を超え、なかでも「1歳になるまで」は25%となっている。「3～5歳」に相談相手がほしかった回答者は、子育ての悩みや気になることに関する回答率も高い。

相談先■「配偶者・パートナー」が73%と最も多く回答されており、「その他の親族」が67%で続いている。その他では、「隣近所の人、地域の知人、友人(58%)」「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間(47%)」などが回答されており、就学前児童保護者と概ね同様の相談先が回答されている。



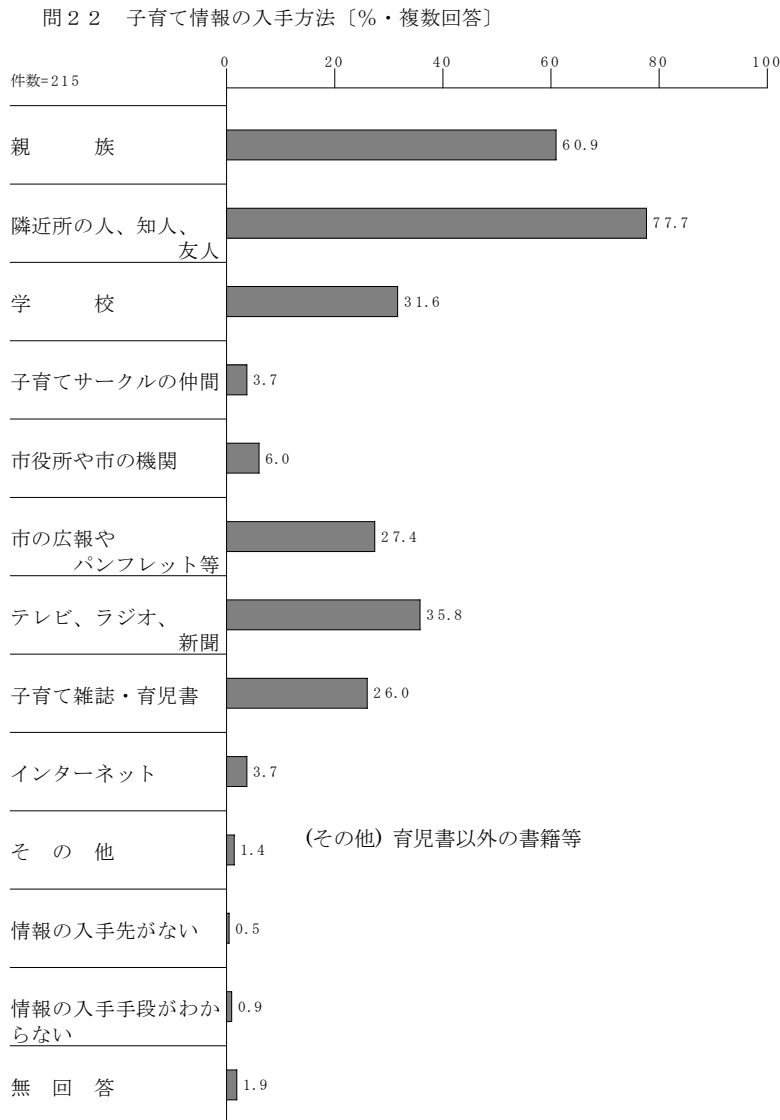
問 2 1 子育ての悩みの相談先 [%・複数回答]



学年が上がると、「その他の親族」の割合が低下している。親子だけの世帯の方が、相談先の回答率が全般的に高く、なかでも「隣近所の人、地域の知人、友人」は65%回答されており、同居世帯よりも17%高い。一方、同居世帯では、「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」が親子だけの世帯よりも多く回答されている。「隣近所の人、地域の人、友人」の割合が高いのは、中央地区・鷺塚地区・新川地区の回答者でそれぞれ60%を超えている。

共稼ぎ世帯は、「配偶者・パートナー」「その他の親族」とあわせて「隣近所の人、地域の知人、友人」が63%と多く回答されており、非共稼ぎ世帯では「配偶者・パートナー」の割合が83%と高く、「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」も58%と高くなっている。

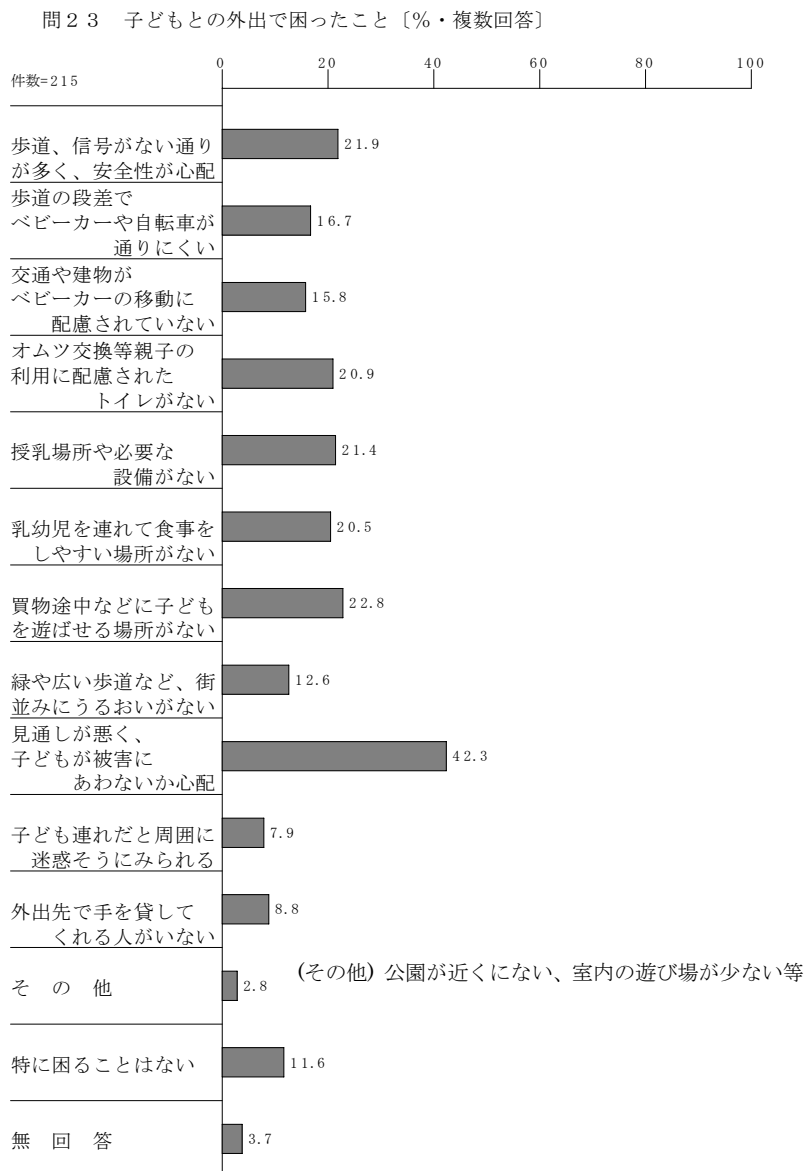
子育て情報の入手方法■「隣近所の人、知人、友人」が78%と最も多く、「親族」が61%と共に多く回答されており、その他では、「テレビ、ラジオ、新聞」が36%、「学校」が32%、「市の広報やパンフレット等」が27%となっており、何らかの情報入手方法がある回答者がほとんどである。



親子だけの世帯の方が同居世帯よりも、相談先と同様に情報入手方法の回答率が全般的に高く、「隣近所の人、知人、友人」は特に多く回答されている。「隣近所の人、知人、友人」という回答は、鷺塚地区の回答者で88%と特に高い。相談に比べ、「親族」から情報を得る割合は低下しているが、配偶者以外の親族に相談する回答者は、情報も親族から得ている割合が高い。

### ③ 外出・地域での活動

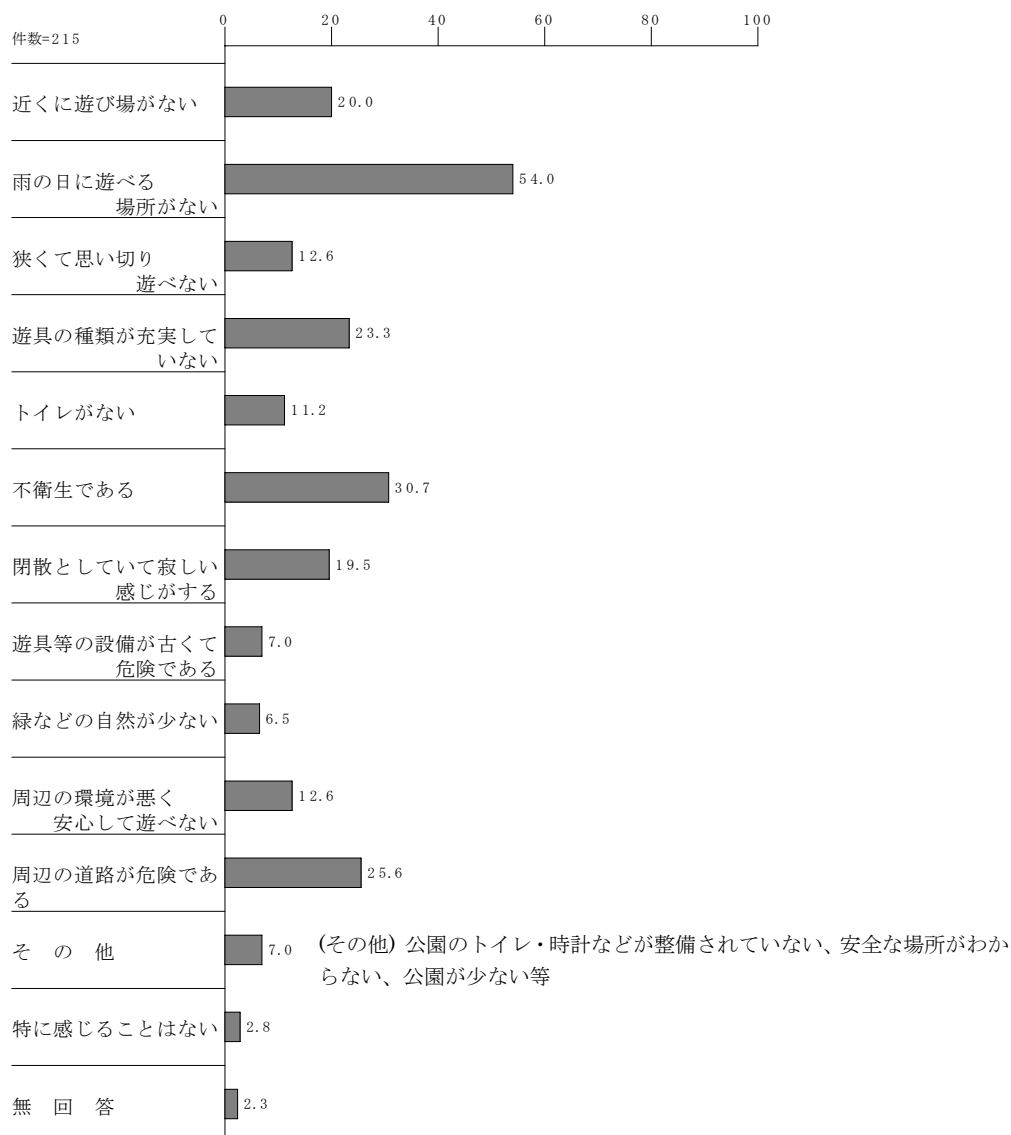
子どもとの外出で困ったこと■「見通しが悪く、子どもが被害にあわないか心配」が42%と最も多く、その他の回答は「買物途中などに子どもを遊ばせる場所がない(23%)」や「歩道、信号がない通りが多く、安全性が心配(22%)」「オムツ交換等親子の利用に配慮されたトイレがない(21%)」などが回答されているが、大幅に割合が低い。



学年や世帯構成等による差異はみられないが、就学前児童よりも回答が大幅に多い「見通しが悪く、子どもが被害にあわないか心配」という回答は、日進地区では29%と低い、西端地区では60%回答されている。

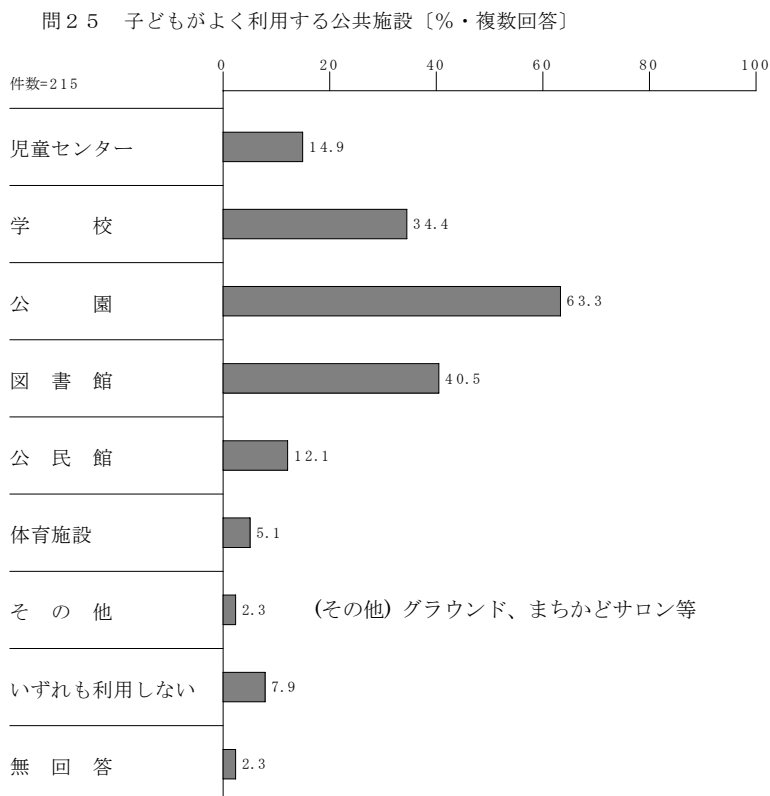
子どもの遊び場で感じること ■「雨の日に遊べる場所がない」が54%と最も多く回答されており、その他では「不衛生である(31%)」や「周辺の道路が危険である(26%)」「近くに遊び場がない(20%)」などが回答されているが、大幅に割合が低下している。

問24 子どもの遊び場で感じること [%・複数回答]



2年生の回答者は、全般的に回答率がやや高い。最も回答の多い「雨の日に遊べる場所がない」は広く回答されているが、新川地区の回答者は67%と特に高く、中央地区と西端地区の回答者もそれぞれ60%程度回答されている。「不衛生である」という回答は、就学前児童保護者に比べて回答が多いが、なかでも大浜地区・棚尾地区・日進地区の回答者で多くみられる。

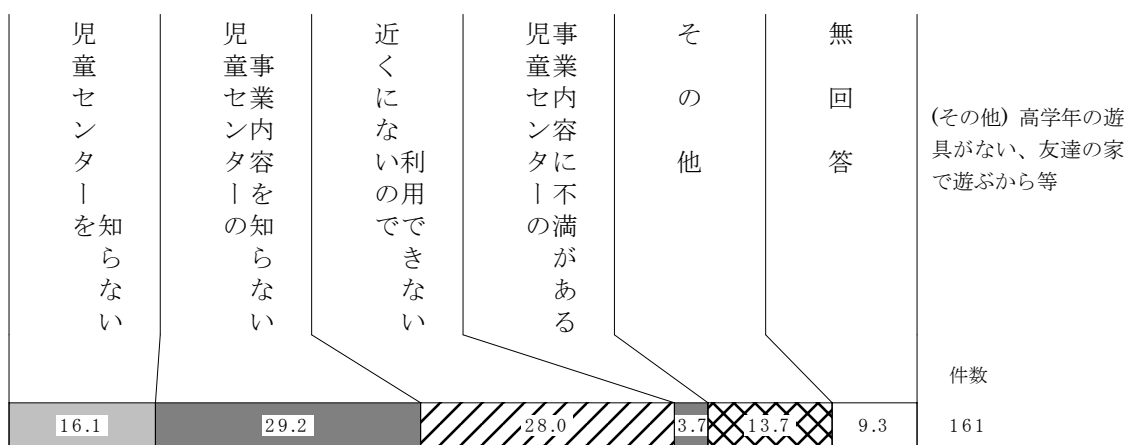
よく利用する公共施設■「公園」が63%と最も多く回答されており、「図書館」が41%、「学校」が34%となっている。



「学校」「公園」は学年が上がると利用率が上昇しており、3年生は「公園」が70%、「学校」が45%回答されている。1年生では、「児童センター」が22%と、利用率が高い。棚尾地区の小学生は、「公園」の割合が52%と低く、「児童センター」の利用が多い。「学校」を多く利用しているのは、日進地区・鷲塚地区・西端地区でそれぞれ40%を超えている。非共稼ぎ世帯の方が、「学校」「公園」「図書館」などの利用率がやや高い。

児童センターを利用しない理由■「児童センターの事業内容を知らない」が29%、「近くにないので利用できない」が28%で、主な理由として回答されている。

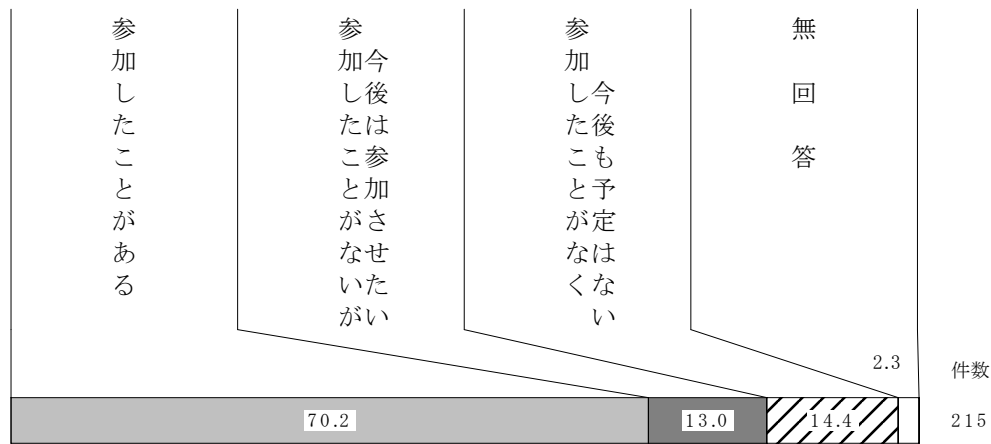
問25 (1) 児童センターを利用しない理由〔%〕



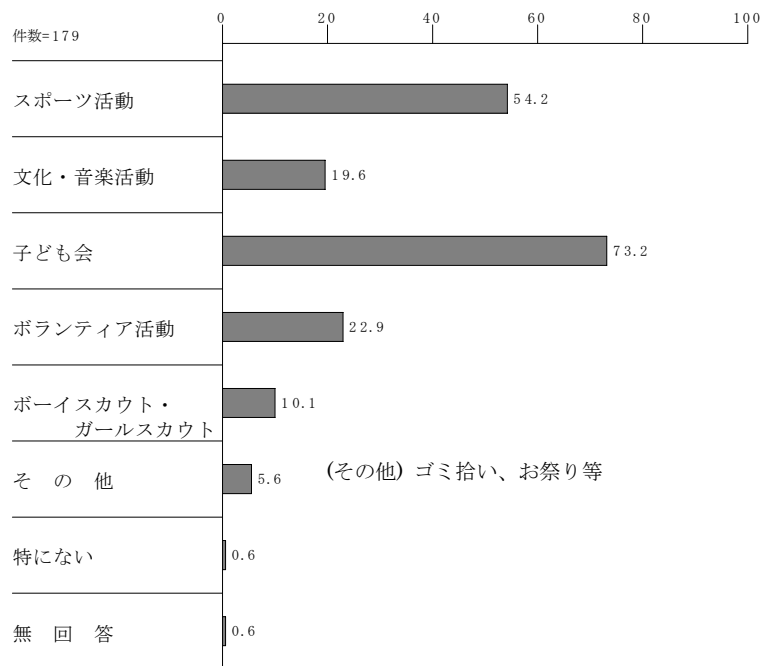
2年生と同居世帯の児童センター未利用者は、「児童センターの事業内容を知らない」という回答が多くみられ、「近くにないので利用できない」という回答は、新川地区と西端地区の回答者でそれぞれ40%以上回答されている。

地域・グループ活動への参加 ■「参加したことがある」が70%と参加率が高く、参加した活動は、「子ども会」が73%と最も多く、「スポーツ活動」が54%、「ボランティア活動」が23%、「文化・音楽活動」が20%回答されている。

問26 地域・グループ活動への参加 [%]



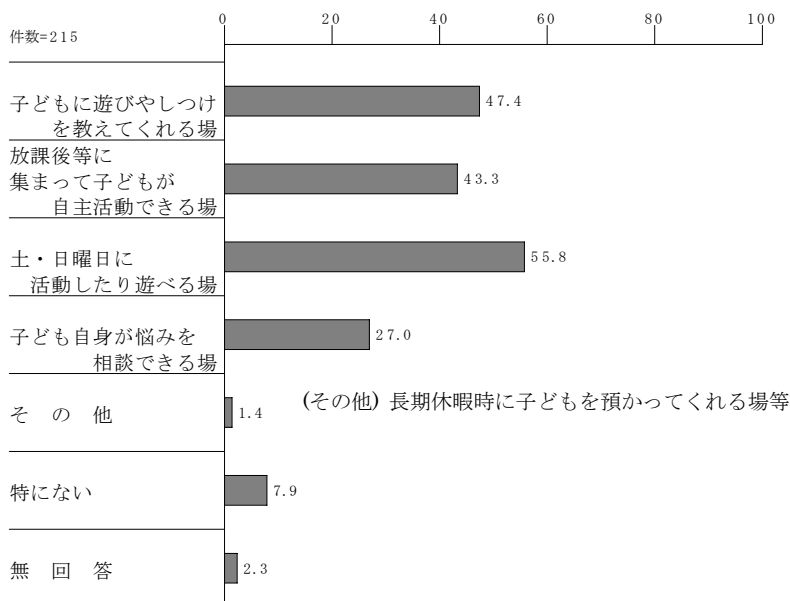
問26 (1) 参加または参加希望の活動 [%・複数回答]



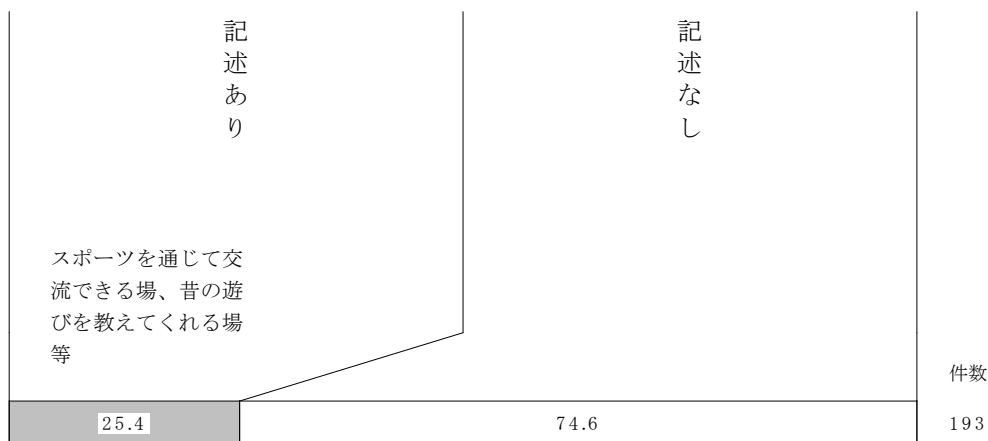
参加率は3年生が最も高く、82%に上り、子ども数が3人以上の世帯の参加率も高い。新川地区は、82%が「参加したことがある」と回答しており、大浜地区は参加率が低い。活動内容は、各学年ともに「子ども会」の参加率が高いが、3年生は「スポーツ活動」への参加も多くみられる。「子ども会」への参加率は、大浜地区と棚尾地区で40%台と低調だが、他の地区は参加率が高い。今後参加させたい活動内容は、「スポーツ活動」が79%と特に多く回答されている。

望ましい地域での交流の場 ■ 「土・日曜日に活動したり遊べる場」が56%と最も多く回答されているが、「子どもに遊びやしつけを教えてくれる場（47%）」や「放課後等に集まって子どもが自主活動できる場（43%）」などの回答も多い。

問 2 7 望ましい地域での交流の場 [%・複数回答]



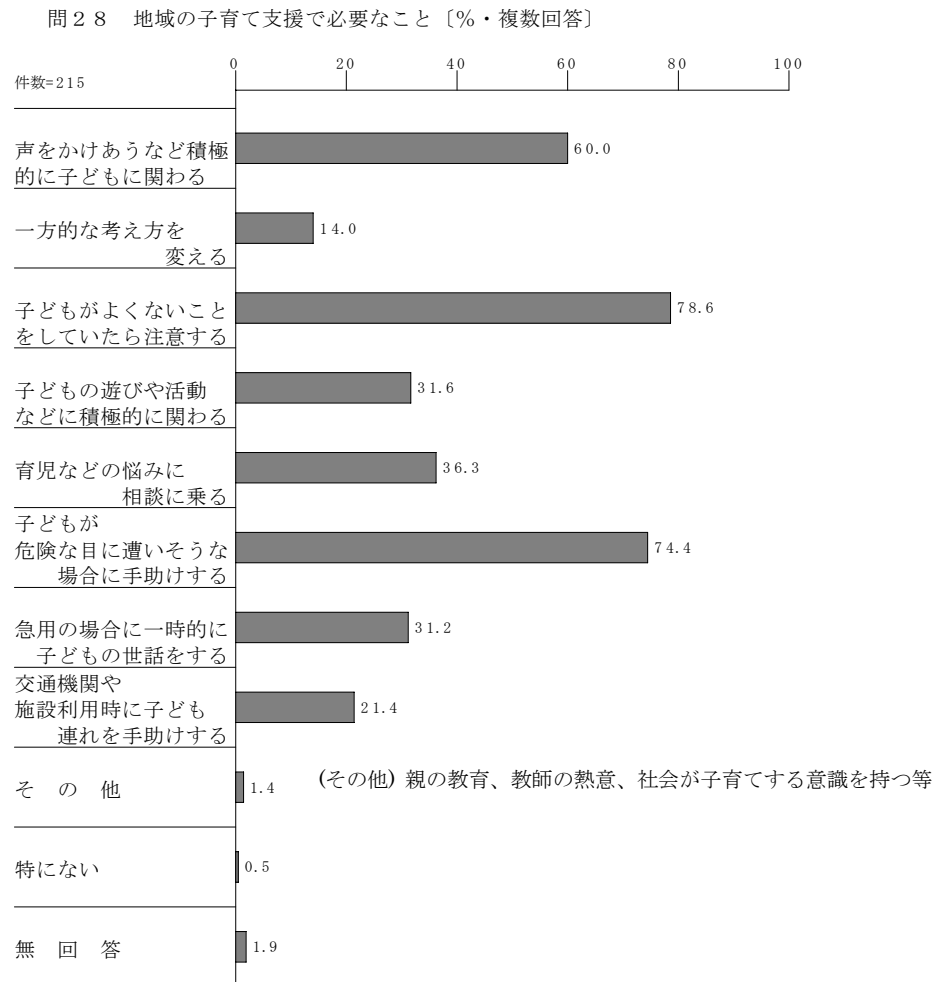
問 2 7 (1) 交流の場の具体的内容 [%]



「土・日曜日に活動したり遊べる場」は、2年生で61%、世帯の子どもが1人の世帯で68%、日進地区・鷺塚地区・西端地区の回答者でそれぞれ70%前後と高い回答率となっている。「子どもに遊びやしつけを教えてくれる場」は、日進地区の回答者で59%回答されている。

#### ④ 地域での子育て

地域の子育て支援で必要なこと ■ 「子どもがよくないことをしていたら注意する」が79%、「子どもが危険な目に遭いそうな場合に手助けする」が74%で、並んで多く回答されている。また、「声をかけあうなど積極的に子どもに関わる」が60%など、地域での子育て支援について全般的に回答率が高いといえる。

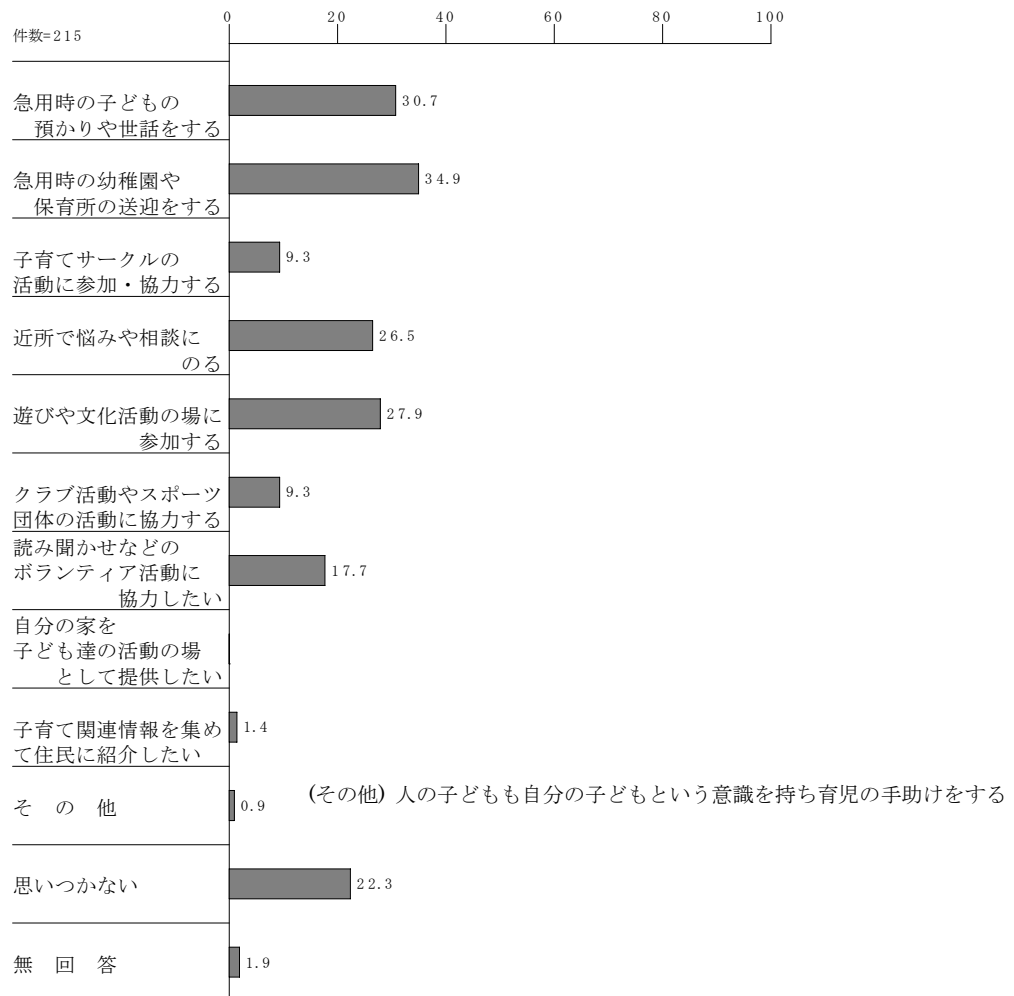


回答の多い3項目は、各学年で同様に回答されており、「子どもが危険な目に遭いそうな場合に手助けする」は子どもが1人の世帯や鷺塚地区の回答者、非共稼ぎ世帯でそれぞれ85%を超えて回答されている。



地域協力の中での自分の役割 ■ 「急用時の幼稚園や保育所の送迎をする」が35%、「急用時の子どもの預かりや世話をする」が31%、「遊びや文化活動の場に参加する」が28%、「近所で悩みや相談にのる」が27%で僅差である。

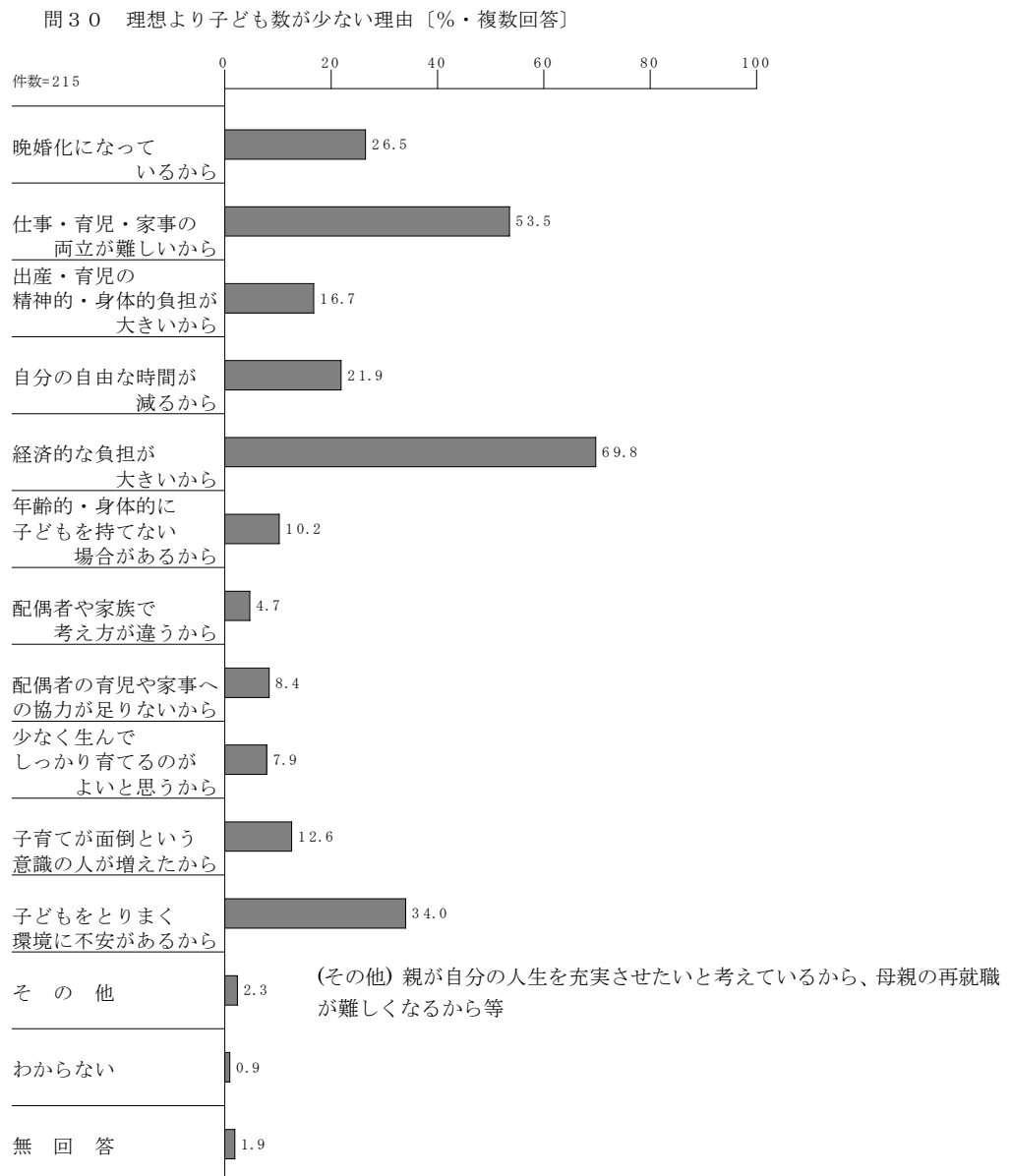
問 2 9 地域協力の中での自分の役割 [%・複数回答]



非共稼ぎ世帯の方が全般的に回答率は高く、「急用時の子どもの預かりや世話をする」が42%、「急用時の幼稚園や保育所の送迎をする」は47%、「近所で悩みや相談にのる」も35%回答されており、地域の力としての認識が高い。また、子どもが1人の世帯は「読み聞かせなどのボランティア活動に協力したい」という回答が多く、子ども数が増えると「近所で悩みや相談にのる」割合が上昇し、3人の世帯では36%、4人以上では43%に上る。中央地区の回答者は、「急用時の子どもの預かりや世話をする」と「近所で悩みや相談にのる」という回答がそれぞれ40%を超えて高い。

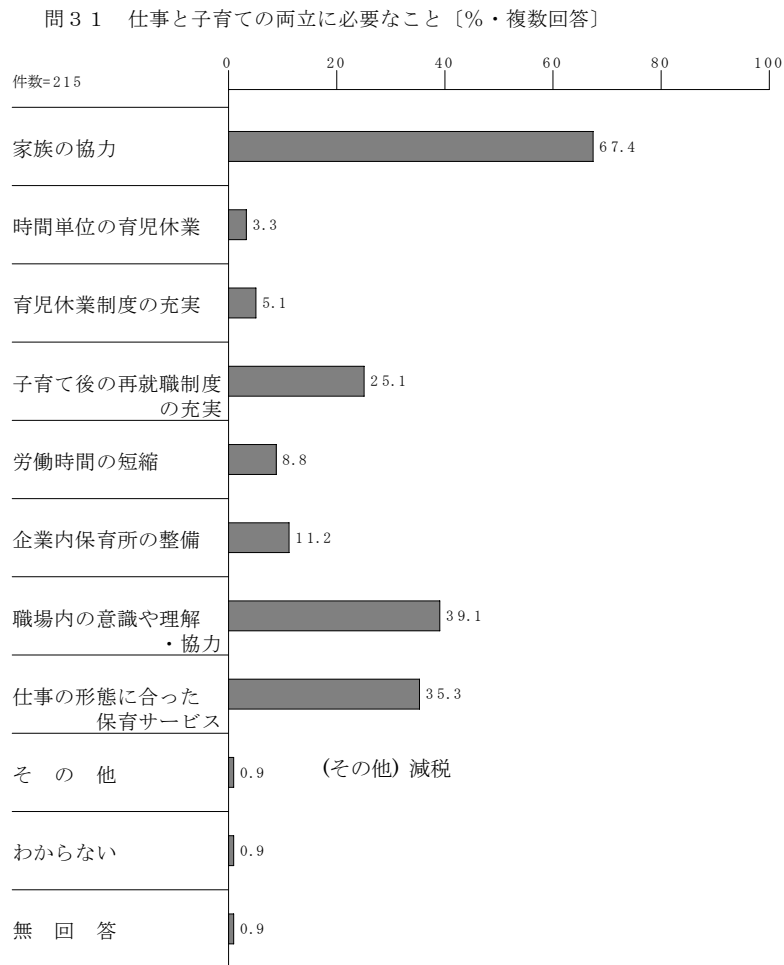
## ⑤ 子育て等に関する考え

理想より子ども数が少ない理由 ■「経済的な負担が大きいから」が70%と最も多く回答されており、ついで「仕事・育児・家事の両立が難しいから」が54%、「子どもをとりまく環境に不安があるから」が34%で続いており、就学前児童保護者と同様の回答が多い。



「経済的な負担が大きいから」という回答が特に多いが、世帯の子ども数が増加すると割合が上昇傾向であり、親子だけの世帯でも76%と高い回答率となっている。「仕事・育児・家事の両立が難しいから」という回答は、親子だけの世帯と共稼ぎ世帯で多くみられる。

仕事と子育ての両立に必要なこと ■ 「家族の協力」が67%と特に多く回答されており、その他では「職場内の意識や理解・協力」が39%、「仕事の形態に合った保育サービス」が35%回答されている。

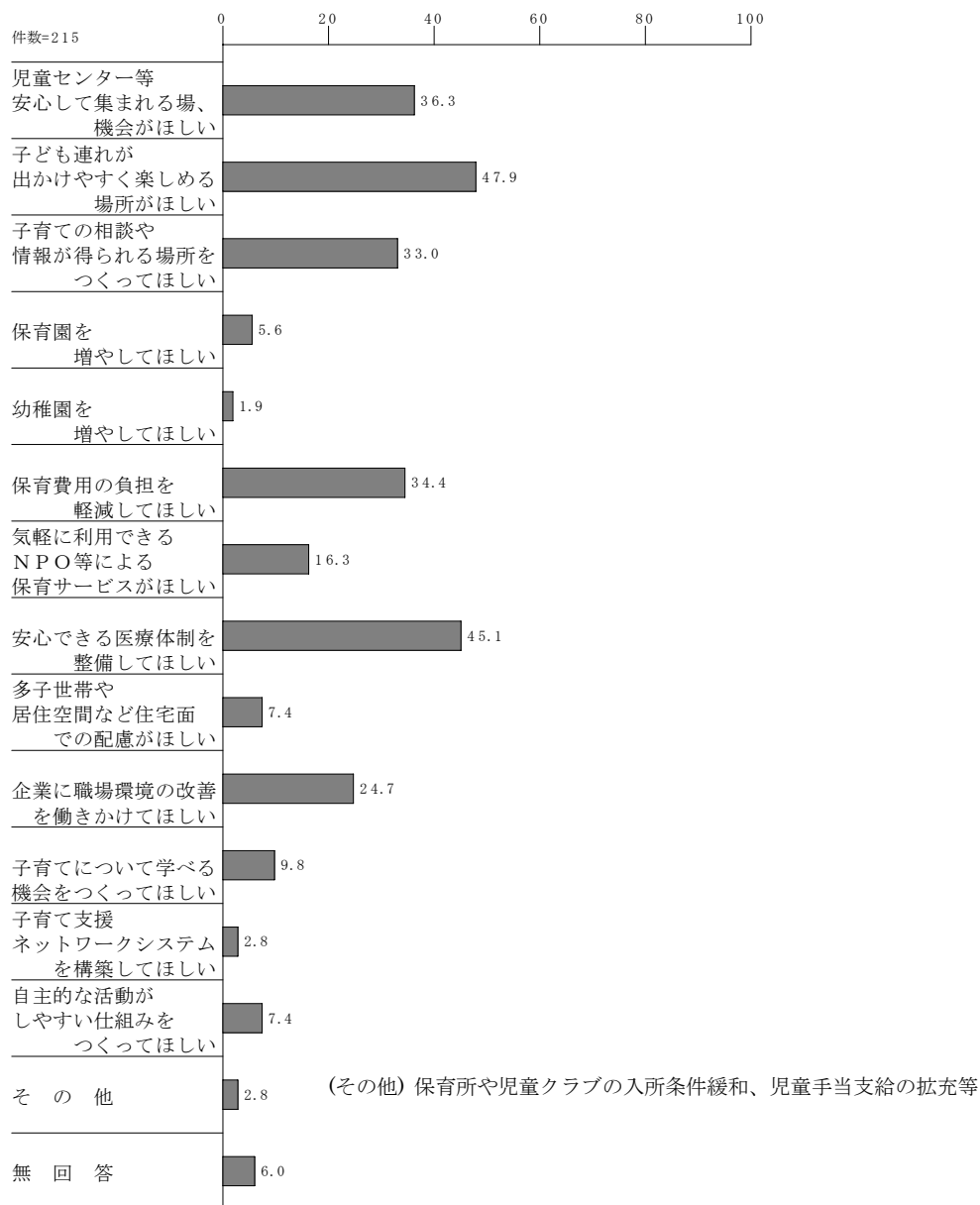


「家族の協力」の必要性は様々な角度から多く回答されており、農林漁業や自営業の従事者で多いものの、共稼ぎ世帯と非共稼ぎ世帯の差異はさほどみられない。棚尾地区と日進地区の回答者は、「家族の協力」がそれぞれ83%程度と高い回答率となっている。「家族の協力」と回答している人が父親に関わってほしいと思う子育ては、保護者会やPTA活動への参加の回答率が特に高い。

## ⑥ 子育て支援施策の充実

子育て支援施策の充実 ■「子ども連れが出かけやすく楽しめる場所がほしい」が48%と、「安心できる医療体制を整備してほしい」が45%と多く回答されている。ついで、「児童センター等安心して集まれる場、機会がほしい」が36%、「保育費用の負担を軽減してほしい」が34%となっている。

問3 2 子育て支援施策の充実 [%・複数回答]



「子育ての相談や情報が得られる場所をつくってほしい」という回答は、3年生で43%回答されている。「児童センター等安心して集まれる場、機会がほしい」は、棚尾地区と西端地区でそれぞれ60%程度、「子ども連れが出かけやすく楽しめる場所がほしい」は、棚尾地区で59%と回答が多い。土曜日の学童保育希望者は、「気軽に利用できるNPO等による保育サービスがほしい」という回答が27%と多い。今後の各種サービスの利用希望がある回答者は、「児童センター等安心して集まれる場、機会がほしい」という回答が多くみられる。